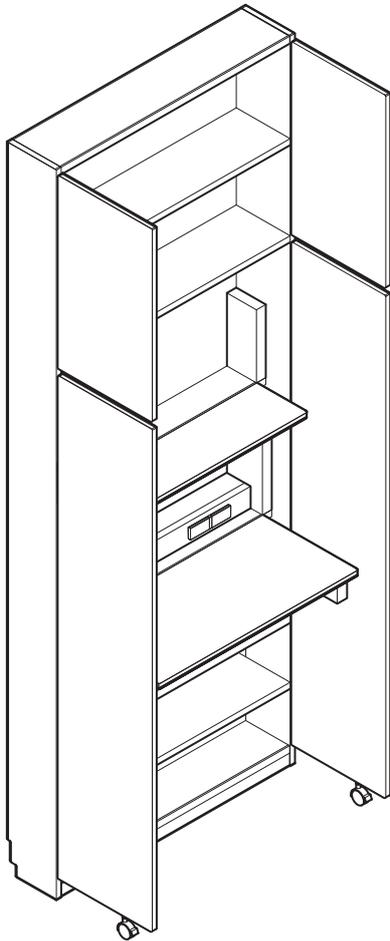


スイッチプラス 740



※オプションを含めたイラストです。

施工業者様へ

弊社では、お施主様が製品を安全に正しくご使用いただくための
のお願い事項やお手入れ方法などの重要な内容を記載した「取扱説明書」を添付しております。

必ず、取扱説明書をお施主様に手渡し、使用方法を説明して
いただきますようお願いいたします。

※取扱説明書は弊社HP <http://www.daiken.jp/> からダウンロードできます。



もくじ

施工説明書

1. 安全上のご注意 (必ずお守りいただきたいこと) ...	2
2. 施工前の準備	3
3. 製品の構成について	9
4. 施工方法	13

取扱説明書

1. お使いになる前に	32
2. 本体の使い方	34
3. 両開き扉の調整方法	35
4. 耐震ロックの解除のしかた	37
5. お手入れの仕方	38

- この製品の性能と安全性を確保するために、この施工説明書をよくお読みいただき、手順通りに正しく施工してください。
- この説明書に出てくる❗️、🚫マークや「お願い」は、施工上重要な内容が記載されていますので、注意深く読み、よく理解してから作業してください。
- 梱包材や残材は、法律に従って適切に処理してください。
- 製品を廃棄する際は、法律および地方自治体の規則に基づいて適切に処理してください。

● 本製品は耐キャスター性能のある床材の上に設置ください。キャスター対応でない場合は床に傷を付ける恐れがあります。

● 本製品は畳やカーペットの上には設置できません。また、クッション性のある床材 (防音フロアなど)の上にも設置はできません。設置されると製品の故障や床面を傷つける恐れがあります。

● オンボード工法で施工する場合は、本体付近にコンセントのある場所に設置するか、コンセントの設置が必要となります。

施工の際は、以下の工具をご用意ください。

- 電動ドリル (+1番ビット、+2番ビット)
※ インパクトドライバーは金具の破損や本体の破損につながるおそれがあるため、使用しないでください。
- 手回しドライバー
- ホールソー (φ38用)
(オプションの配線キャップを使用する場合: φ38用)
- ゴムハンマー
- コンベックスなど測定定規
- 水準器



※左記のマークがある場合は、電動ドリルを使用しないでください。

1

安全上のご注意 (必ずお守りいただきたいこと)

この製品をお施主様が末永く安全に使えるように、またトラブルなく確実な施工をするために、以下のことを必ず守ってください。

警告表示の種類と内容

	警告	誤った取扱いにより死亡や重傷などに結びつく可能性のある内容		注意	誤った取扱いにより傷害または家屋・家財などの損害に結びつく内容
--	-----------	-------------------------------	---	-----------	---------------------------------

本文中に使われている図・記号の意味は次のとおりです。

	してはいけない内容です		必ず実行していただく内容です		留意事項、操作方法、使用・お手入れ方法など
--	-------------	---	----------------	---	-----------------------

警告

●以下の内容を守らないと、棧が正しく取付けられず、本体が外れて転倒し、けがや破損するおそれがあります。

-  オンボード工法施工では、必ず専用接着剤「大建工業DS接着剤」(別売)を使用してください。また、壁面に接着すると、簡単に取れませんので、ご注意ください。
-  壁面にひび割れや穴、凹凸がないことを確認してください。
-  壁面の不陸が3mm以内であることを確認してください。
-  製品を壁面に固定する際は、必ず十分な強度ある下地に確実に固定してください。十分な強度がない壁面に固定すると、製品が外れたり倒れたりして、けがをするおそれがあります。
-  壁面が石こうボードの場合、「石膏ボード施工マニュアル」「石膏ボードハンドブック」(一般社団法人石膏ボード工業会発行)にしたがって石こうボードが固定されていることを確認してください。
-  製品に足や腰を掛けたり、乗ったりしないでください。落下や破損して、けがをする原因になります。
-  製品を壁面に固定する際は、指定されたビスと本数で確実に固定してください。指定外のビスを使ったり、本数が少ないと、製品が外れたり倒れたりして、けがをするおそれがあります。

注意

●以下の内容を守らないと、棧が正しく取付けられません。

-  壁面の垂直を確認してください。
-  壁材や下地の条件を満たしていることを確認してください。(→P.3の「壁材・床材の確認」参照)
-  この製品は、一般住宅向け室内用です。他の用途に使用したり、水に濡らさないでください。屋外での使用や水濡れは、変色や変形、ショート・感電の原因になります。
-  施工時の製品の取扱いにご注意ください。本製品は木質製品ですので、落下や衝突によりキズ、凹みがつく場合があります。
-  施工作業は、必ず2人以上でおこなってください。1人で作業をおこなうと、思わぬ事故のおそれがあります。
-  製品を立て掛けたり、不安定な場所に置いたりしないでください。製品が倒れてけがをしたり、製品が傷ついたり、反りが発生したりする原因になります。
-  製品の分解や改造をしないでください。施工時に製品の形状を変えるような加工などをされた場合は、品質保証責任を負いかねます。
-  壁面固定する際、本体が3°以上傾いた状態のまま固定しないでください。耐震ロックなどの機能が正常に発揮されない原因になります。

お願い

- 養生テープを製品に直接貼付けないでください。表面化粧がはがれたり、接着剤が残ることがあります。
- 一度使用されたダボ穴や丁番プレート、取付ネジ、取付ビスを外すと、穴が大きくなったり、バリが発生したりします。部材や部品の取付位置をお施主様とよく相談のうえ、施工してください。

2 施工前の準備

1. 壁材・床材の確認

1 施工方法と可能なコンセントの配線方法を確認する

	標準施工⇒P.3	オンボード工法施工⇒P.4	壁埋込施工⇒P.7
施工方法	<p>コーススレッド φ3.8×51 (同梱)</p>	<p>オンボード工法用L金具セット (別売)</p> <p>オンボード工法用 L金具セット (別売)</p> <p>DS接着剤 (別売)</p>	<p>コーススレッド φ3.8×51 (同梱)</p>
コンセントの配線方法 ※P.7参照	裏板配線 側板配線 本体内部配線	側板配線 本体内部配線	側板配線

2. 施工前の確認

1 固定用栈木の取付位置の確認

この製品は壁面への固定が必要です。

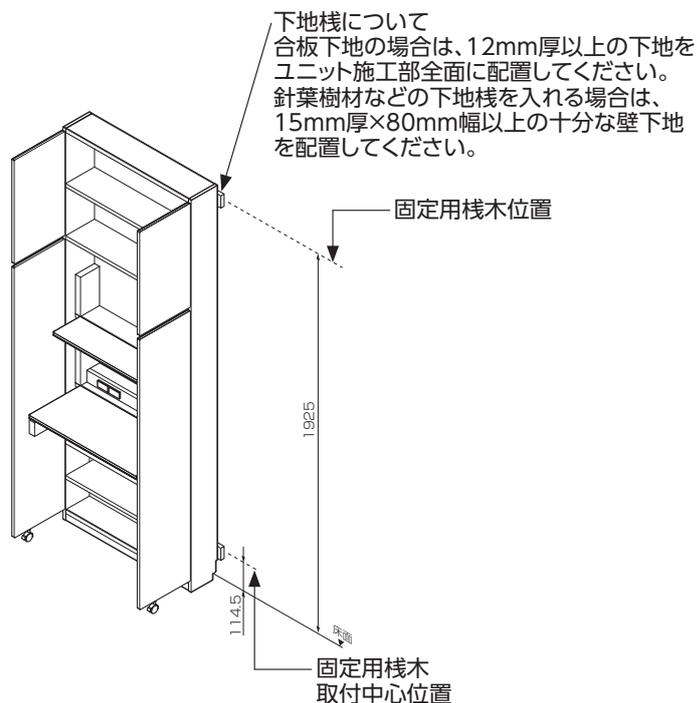
本体の壁面への固定位置を確認し、指定の位置に固定用栈木を配置してください。

◻施工上のご注意

- マンションへの施工で、壁や床に固定する場合は、管理組合への許可が必要です。(→P.5)

標準施工の場合

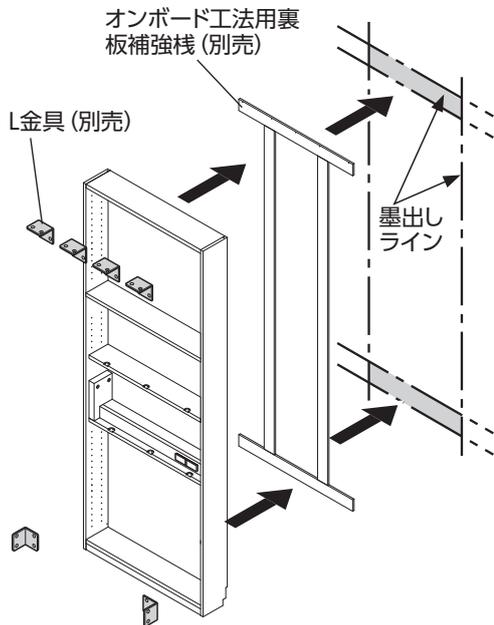
本体内面の四隅を、同梱の壁固定ビスで固定してください。



2 施工前の準備

オンボード工法施工の場合

必ず壁材の種類、裏板補強棧の取付け位置を確認しておいてください。



⚠ 注意

化粧石こうボードや塗り壁（珪藻土・土壁など）およびRC壁、石こうボードの表面に塗装の場合には取付けできません。※ふかし壁の場合を含みます。棧木が確実に接着できないため、本体が外れて転倒し、けがや破損するおそれがあります。

取付けできない壁材 (P.6)

仕上げ材の種類	化粧石こうボード
	珪藻土
	タイル

◆施工上のご注意

この製品は、接着施工で裏板補強棧を壁面へ取付け、本体を固定します。

現場では、必ず裏板補強棧の取付位置を確認し、施工をおこなってください。

※取付け位置についてはP.18を参照してください。

※電源の取出位置を確認してください。

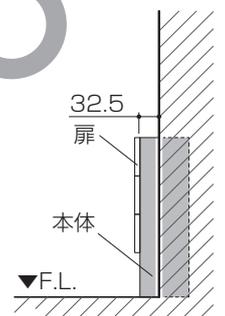
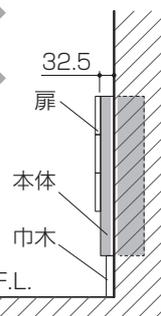
壁埋込施工の場合

2 設置箇所の確認

- 扉の開閉に支障のない箇所であることを確認してください。
- 巾木を取り去ってから施工してください。巾木上に施工した場合、底板と前巾木との隙間が露出します。
- 外壁に面した内壁に設置する場合は、必ず本体裏板と壁内部との隙間に適切な厚みの断熱材を入れてください。

お願い

開口部の奥行きが117.5mm以上で裏板補強残が壁面に接しない場合、補強のために裏板下部を本体底板に向かってL25程度のスリムビス（現場手配）で固定してください(P.17参照)。



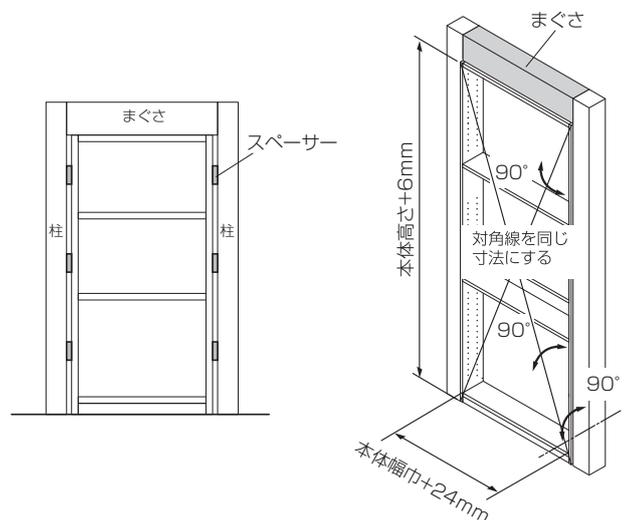
3 開口部の確認

- 本体上部と下部に必ずまぐさを設けてください。
- 開口部の幅、高さは以下の寸法を確保してください。
 - ・幅 : 本体幅 (外寸) + 24mm
 - ・高さ : 本体高さ (外寸) + 6mm
- 開口部分の対角線が同じ寸法になっていることを確認してください。
- 柱が垂直であること、まぐさと窓台が水平であることを下げ振りや水準器を用いて確認してください。

お願い

設置時に配線工事を必要とします。配線用の隙間を設けてください。

また必要に応じて、間柱に配線用の加工を実施してください。（配線箇所はP.7に記載）



2 施工前の準備

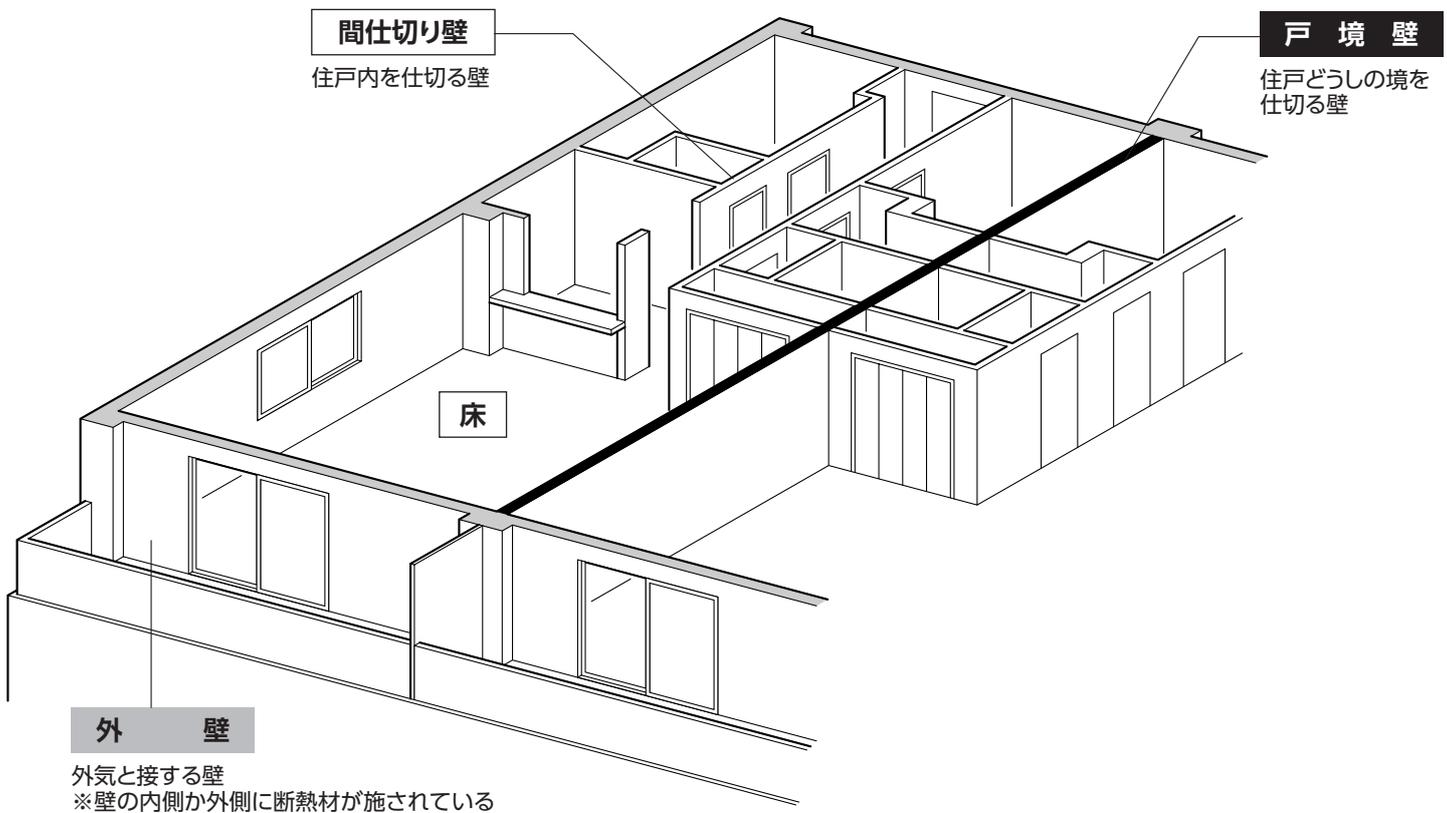
4 マンションに施工する場合の建物への固定について

この製品は設置後、壁への固定が必要です。固定できない場合は施工できません。固定のしかたには、以下の3種類があります。固定方法はP.21を参照してください。

- ・標準施工
- ・オンボード工法施工
- ・壁埋込施工

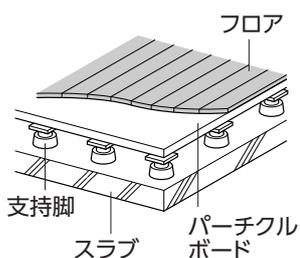
一般的なマンションに施工する場合、壁・床の種類によって固定のしかたが異なります。まず、壁・床の種類を確認してください。

壁・床の種類を確認する



取付けできる床材

- ・二重床 (Double bed)
- ・一般的な戸建住宅用の床 (General floor for detached houses)



❑固定できない条件

以下の条件の仕上げの場合は固定できません。

- 床が畳・カーペットの場合 (When the floor is tatami or carpet)
- 耐キャスター性能のないフローリング (When the flooring is not anti-caster)
- クッション層付きの防音フロアなど、クッション性のある床材 (When the floor is soundproofing floor with cushioning layer, etc., or other cushioning floor materials)

2 施工前の準備

壁の種類と壁前施工 (標準施工 / オンボード工法施工) の固定のしかた ×: 施工できません

壁の種類	下地種類	施工の種類
間仕切り壁	軽鉄製下地 	標準 または オンボード工法
	木製下地 	標準 または オンボード工法
外壁	RC(または ALC)壁 +GL壁 	オンボード工法
	RC(または ALC)壁 +木製・軽 鉄下地 	標準 または オンボード工法

壁の種類	下地種類	施工の種類
戸 境 壁	RCクロス 直貼壁 	オンボード工法
	RC壁+ GL壁 	オンボード工法
	ALC壁+GL 壁 	オンボード工法
	RC(または ALC)壁 +木製・軽 鉄下地 	標準 または オンボード工法
軽鉄下地組 乾式壁 	標準 または オンボード工法	

2 施工前の準備

2. この製品のコンセントについて

■ 電気・配線工事について

電気・配線工事をするためには、電気工事士の資格が必要です。

「電気設備技術基準」や「内線規定」にしたがって、正しく確実に工事をおこなってください。(通電確認含む)

※配線用線材(電源ケーブル)は必要に応じて現場手配です。

⚠ 警告

以下の内容を守らないと、感電・ショート・火災の原因になります。



製品を水で濡らさないでください。



必ず交流100Vの電源で工事してください。



濡れた手で作業しないでください。



電源プラグやコンセントにホコリやゴミが付着していないことを確認してください。

3. 配線方法の確認

配線方法には「裏板配線」「側板配線」「本体内部配線」の3種類があります。ご利用の施工タイプに応じて、どの配線方法にするか確認しておいてください。本体にのせる機器類の配線コードは、側板または、裏板を加工して配線してください。

側板、裏板の加工位置詳細はP.14にてご確認ください。

●施工タイプと配線方法

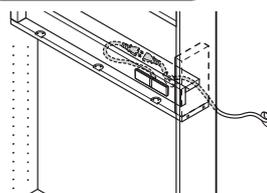
	標準施工	オンボード工法施工	壁埋込施工	
裏板配線	○			・新規工事の場合
側板配線	○	○	○	・リフォームなど壁面のコンセントを利用する場合 ・壁埋込施工を利用する場合
本体内部配線	○	○		・リフォームなど壁面のコンセントを利用する場合

裏板配線の場合

標準施工：裏板を切り欠いて電源ケーブルを内部に引込んでください。

対応施工タイプ

標準施工



側板配線の場合

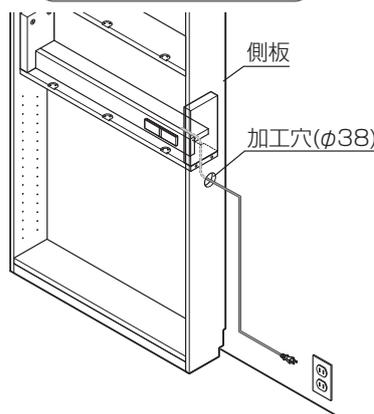
標準施工・オンボード工法施工：側板の加工穴に配線コードを通し、壁面のコンセントなどに接続してください。

壁埋込施工：柱に配線用の貫通穴をあけ、側板の加工穴から電源ケーブルを通してください。

対応施工タイプ

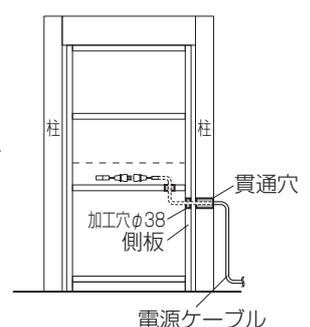
標準施工

オンボード工法施工



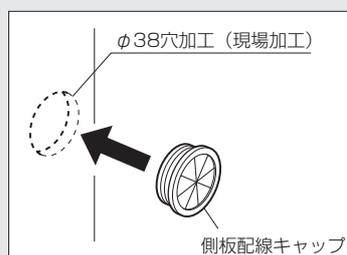
対応施工タイプ

壁埋込施工



◻施工上のご注意

側板の指定の範囲内にφ38の貫通穴を開け、別売りの配線キャップ(FLK741-2)を取付けて配線してください。

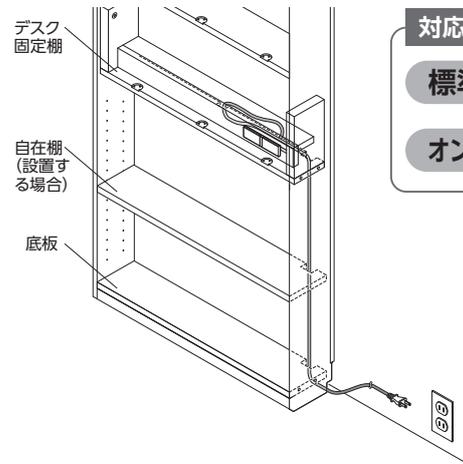
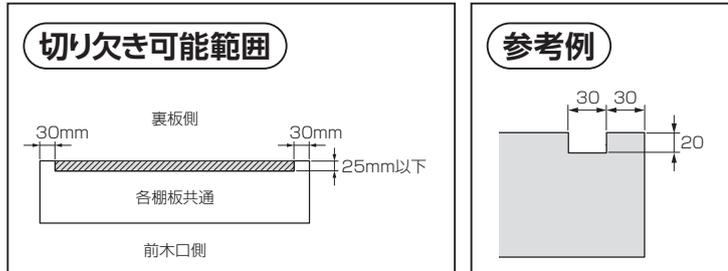


2 施工前の準備

本体内部配線の場合

現場で(右図のように)棚板を切り欠いて側板の下端からコンセントを配線することも可能です。

底板・自在棚・デスク固定棚

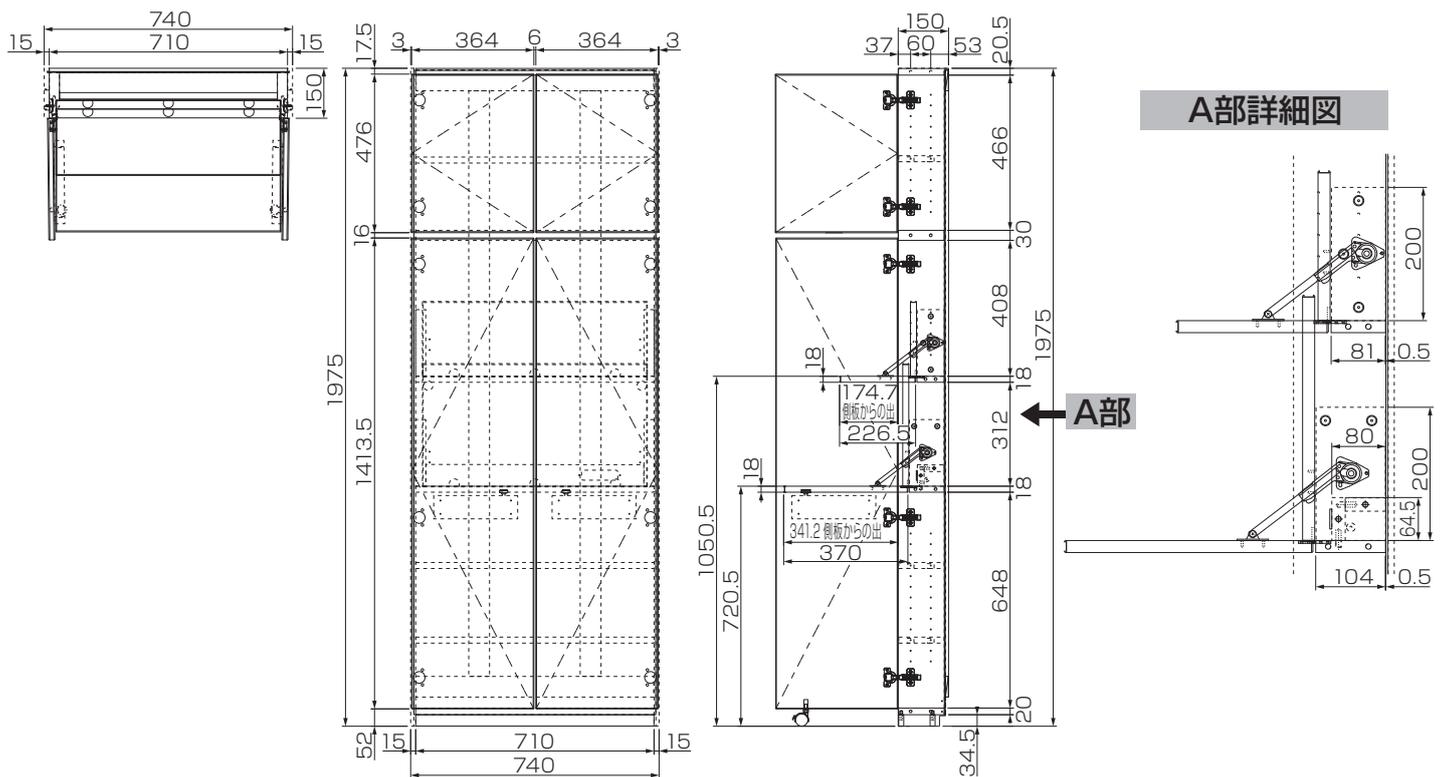


対応施工タイプ

標準施工

オンボード工法施工

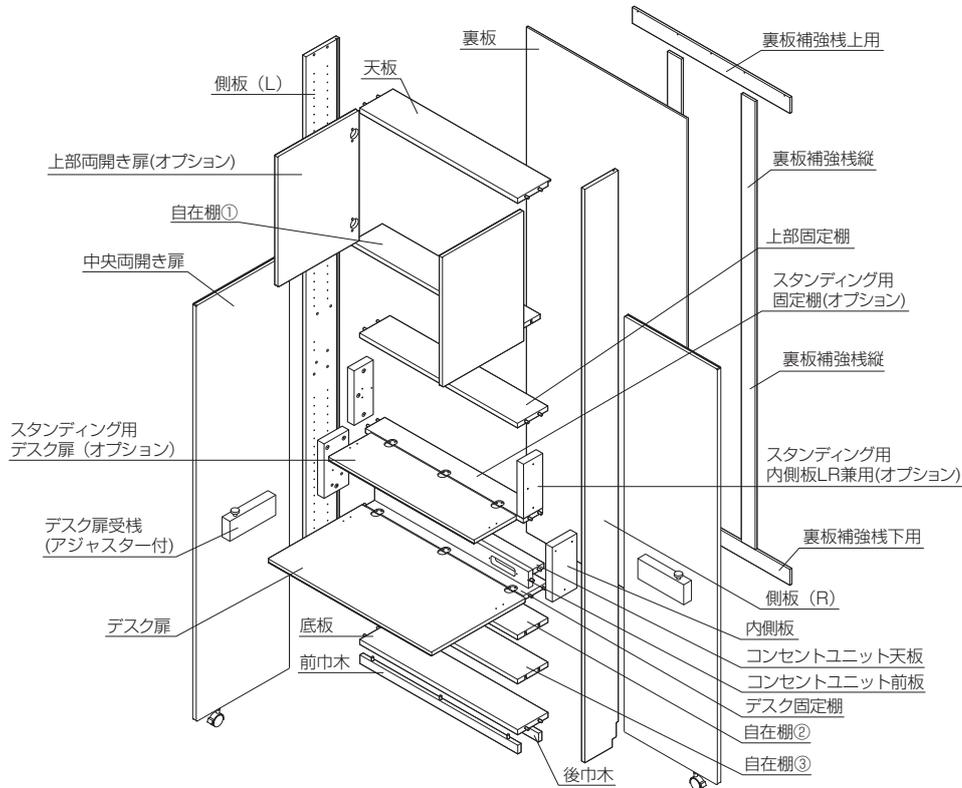
製品寸法図 ※オプションを含むプランです。



3

製品の構成について

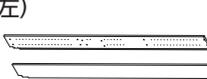
■ 主な名称 ※図はオプションありの場合を表します (オンボード工法用部材は含みません)

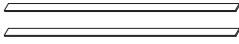


■ 構成部品 / 梱包品番

部材の種類と数量、状態、梱包品番を確認してください。

■ 本体A 品番: FLC1HB-C67▲▲A ▲には扉カラーが入ります。

	部位	製品サイズ			数量
		厚	幅	長	
木部	側板 (右/左) 	15	150	1975	右左各1
	裏板 	2.7	720	1934	1
	デスク扉  ※ドロップ丁番取付済	18	370	670	1
	中央両開き扉 	18	364	1413.5	2

	部位	製品サイズ			数量
		厚	幅	長	
木部	召し合わせ 白 	3.8	14.5	1395	1
	フェルトクッション  ※デスク扉裏にマスキングテープで貼付けて同梱				2
	クリアバンポン  ※デスク扉裏にマスキングテープで貼付けて同梱				6
	背板貼付用注意喚起シール ※デスク扉裏にマスキングテープで貼付けて同梱				1
	裏板補強枠 (縦) ※ 	9	62	1757.5	2
	裏板補強枠 (上/下) ※ 	9	62	708	各1

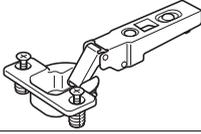
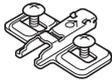
※オンボード工法時は不要。オンボード工法の場合は別途オンボード工法用裏板補強枠が必要。

3 製品の構成について

■ 構成部品 / 梱包品番

部材の種類と数量、状態、梱包品番を確認してください。

■ **本体B 品番：FLC1HB-C67▲▲B** ▲には扉カラーが入ります。

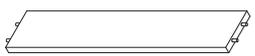
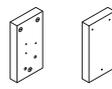
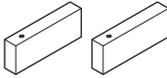
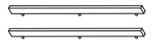
	部位	個数
	接着剤 	2
	施工説明書	1
	デスク扉用ステー本体 (L/R) 	各1
	連結ネジ(トラス小ネジ)  ステー取付座金 	2
	ステー取付座金/ステー固定用ビス (十字穴付バインドタッピンねじ3.5×15) 	12
	ドロップ丁番固定ビス サラ2.7×16 	9
	両開き用丁番本体 (キャッチあり) 	6
	丁番プレート 	6
	耐震ロック  耐震ロック受座  耐震ロック取付ネジ (4本)  φ3.5×16 取付治具 (別売：FLK771) 	2セット
部品(同梱)	巾木避けカバー 左用 (Lの刻印)  右用 (Rの刻印) 	1セット
	自在棚用ダボ (φ3穴用) 	12
	裏板補強枠固定ビス L=35 	5
	壁固定用ビス  φ3.8×51 ビスワッシャー (φ4用)  ビスキャップ 白 	6
	穴隠しキャップφ8  白	4
	デスク扉受け枠用アジャスター 	2
	デスク扉受け枠固定ビス  φ3.8×45 ビスワッシャー (φ4用)  ビスキャップ 白 	各8
	キャスター 	2
	キャスター取付用スパナ (14平) 	1
	内側板固定用ビス  φ3.8×32 ビス穴隠しキャップφ13 (白) *  ビスワッシャー (φ4用) 	各6 ※のみ4

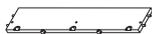
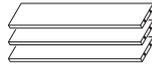
3 製品の構成について

■ 構成部品／梱包品番

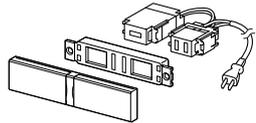
部材の種類と数量、状態、梱包品番を確認してください。

■ **本体B 品番：FLCIHB-C67▲▲B** ▲には扉カラーが入ります。

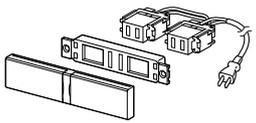
部位	製品サイズ			数量
	厚	幅	長	
天板 	20	149	709.5	1
底板 	20	136.5	709.5	1
内側板 (右/左) 	30	103.5	200	右左各1
デスク扉受棧 (右/左) 	30	70	250	右左各1
前巾木・後巾木 (共通) 	15	34	709.5	2

部位	製品サイズ			数量
	厚	幅	長	
コンセント前板 	20	64.5	649	1
コンセント天板 	20	60	649	1
デスク固定棚 	18	104	709.5	1
上部固定棚 	30	136.5	709.5	1
自在棚 	18	135.5	709.5	3

■ **電源+USB単体 品番：FLC755**

部品	部位	個数	
	電源+USB (コンセント約2m)  十字穴付サラタッピンφ4×16 	1セット	
	AC□		定格電流・電圧 AC 125V 15A
	USB□		定格電流・電圧 DC 5V 2A
			コネクタ形状 Aタイプメス
	電源コード VCTFK 2×2mm ² 2000mm (二重成形差込みプラグ付)		

■ **電源2口コンセント単体 品番：FLC756**

部品	部位	個数
	2口コンセント (コンセント約2m)  十字穴付サラタッピンφ4×16 	1セット
	・定格電流・電圧：AC125V15A 電源コード：VCTFK 2×2mm ² 2000mm (二重成形差込みプラグ付)	

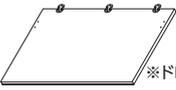
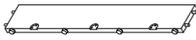
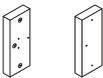
3 製品の構成について

■ 構成部品 / 梱包品番

部材の種類と数量、状態、梱包品番を確認してください。

■ スタンディング用デスク 品番: FLC4HB-067▲▲ (オプション) ※別売

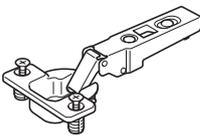
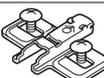
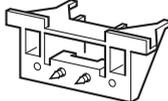
▲には扉カラーが入ります。

	部位	製品サイズ			数量
		厚	幅	長	
木部	スタンディング用デスク扉  ※ドロップ丁番取付済	18	226.5	670	1
	スタンディングデスク用固定棚 	18	81	709.5	1
	スタンディングデスク用内側板 (右/左) 	30	80.5	200	右左各1

	部位	個数
部品 (同梱)	内側板固定用ビス コーススレッド φ3.8×32  ビス穴隠しキャップφ13 白  ビスワッシャー (φ4用) 	6
	フェルトクッション  クリアバンボン  ※スタンディングデスク扉裏に貼付けて同梱	各2
	デスク用ステー (L/R) 	各1
	ステー取付座金  連結ネジ (トラス小ネジ) 	2
	ステー取付座金/ステー固定用ビス (十字穴付バインドタッピンねじ3.5×15) 	12
	ドロップ丁番固定ビス サラ2.7×16 	9

■ 上部両開き扉 品番: FLC2HB-8F▲▲ (オプション) ※別売

▲には扉カラーが入ります。

	部位	製品サイズ			数量
		厚	幅	長	
木部	開戸	18	364	476	2
部品 (同梱)	丁番本体 (キャッチあり) 				4
	丁番プレート 				4
	クリアバンボン  ※扉裏にマスキングテープで貼り付けて同梱				4
	召し合わせ 白 	458			1
	耐震ロック  耐震ロック受座  耐震ロック取付ネジ (4本)  φ3.5×16 取付治具 (別売: FLK771) 				2セット

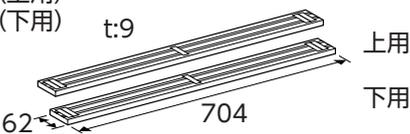
3 製品の構成について

■ 構成部品 / 梱包品番

部材の種類と数量、状態、梱包品番を確認してください。

■ スイッチプラス オンボード工法用棧 品番:FLC757-7 (オプション) ※別売

	部位	製品サイズ			数量
		厚	幅	長	
木部	裏板補強棧 (上) 裏板補強棧 (下) t:9	9	62	704	1
	上 下	9	62	704	1



■ オンボード工法用L金具セット 6入り 品番:FLK744-62 (オプション) ※別売

L金具 6set
固定ビス
トラスφ3.5×12 32本
カバー



■ DS接着剤 品番:FA975 (オプション) ※別売

333ml 1本



4 施工方法

施工の流れは以下のページをご覧ください。

1 準備	14
2 組立て	16
3 オンボード工法施工の場合	18
1.クロスをはがす	18
2.上下のオンボード工法用裏板補強棧を準備する	20
3.オンボード工法用裏板補強棧を固定する	20
4.接着の確認	20
4 壁の固定方法	21
5 自在棚と巾木避けカバーの取付け	22
6 デスク扉・スタンディングデスク扉 (オプション) の取付け	23
7 中央両開き扉・上部両開き扉 (オプション) の取付け	25

施工の際は、以下の工具をご用意ください。

- ⊕ドライバー (No.2)
- 電動ドリル (インパクトドライバーは不可)
- ゴムハンマー
- 接着剤 (付属品)



※左記のマークがある場合は、
電動ドリルを使用しないでください。

◆ 施工上のご注意

- 組立てるときは、床の上に直接部材を置かないでください。
- 養生材または梱包材の上に、ビスや釘などが落ちていないか確認してから作業してください。
製品または床材にキズがつくおそれがあります。

1 準備

図中の丸数字 (❶など) は、手順の丸数字を表しています。

1. 裏板・側板の準備

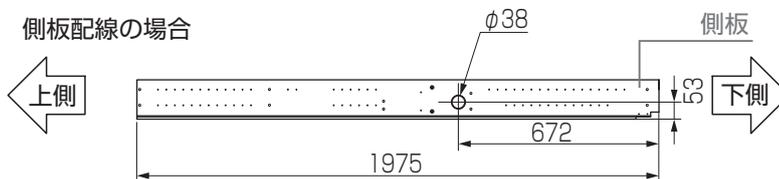
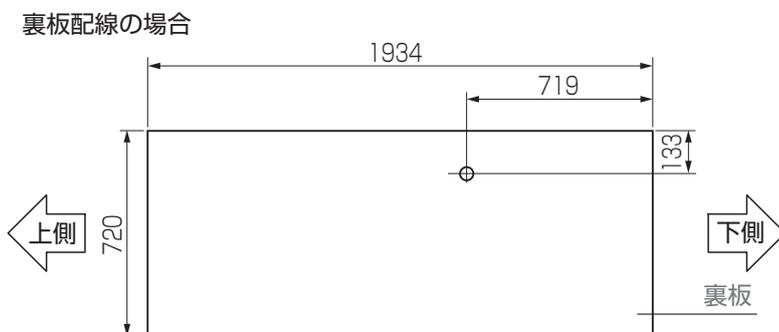
P.3で選択した配線方法に合わせて加工してください。

裏板配線の場合

- ❶ 裏板に配線用のφ38程度の穴加工をする。

側板配線の場合

- ❶ 側板 (右) に配線用のφ38の穴加工をする。

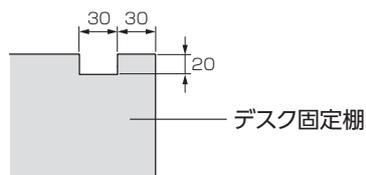


⚠ 注意

- ❗ 穴加工後の木紛等の粉塵はきれいに除去してください。火災等の原因になります。

本体内部配線の場合

※P.8の切欠き可能範囲、参考例を参照してください。

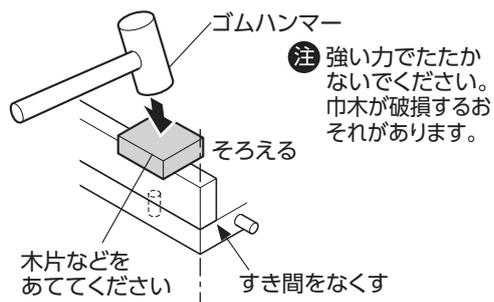


裏板配線の場合は、デスク固定棚に切欠き加工をする必要はありません。

2. 底板・天板の準備

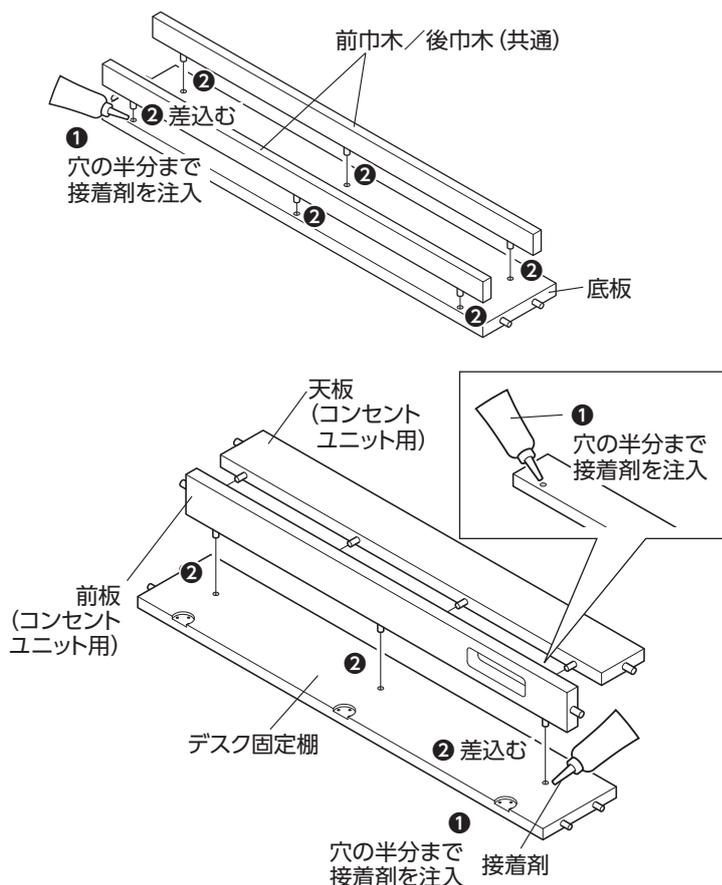
- ❶ 底板裏面に接着剤を注入する。
- ❷ 前巾木と後巾木を底板に差し込み、確実に取付ける。

前巾木と後巾木の取付けかた



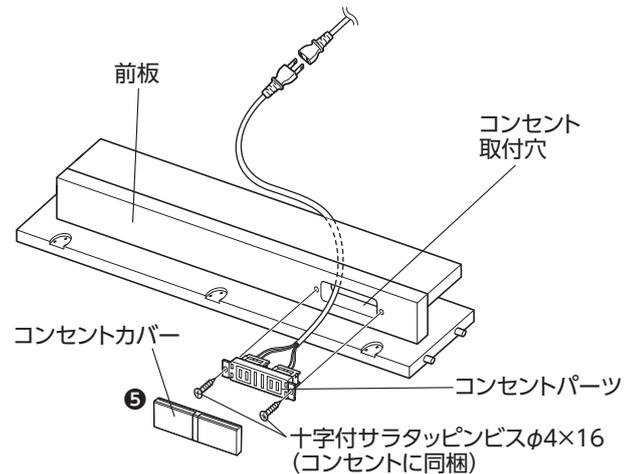
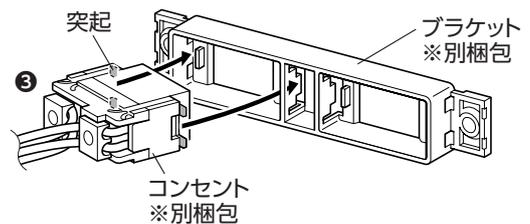
3. デスク固定棚・コンセントユニットの準備

- ❶ デスク固定棚、前板 (コンセントユニット用) に接着剤を注入する。
- ❷ デスク固定棚と前板 (コンセントユニット用)、天板 (コンセントユニット用) をダボ穴に差し込んで組み立てる。



4 施工方法

- ③ コンセント (別梱包) の突起をブラケット (別梱包) の外側に引っ掛け、反対側を「パチン」と音がするまではめ込む。反対側を「パチン」と音がするまではめ込む。
- ④ もう片方のコンセントも同様に取付ける。
- ⑤ 前板のコンセント取付穴に③ではめこんだコンセントパーツをビスで取付けてコンセントカバーをつける。

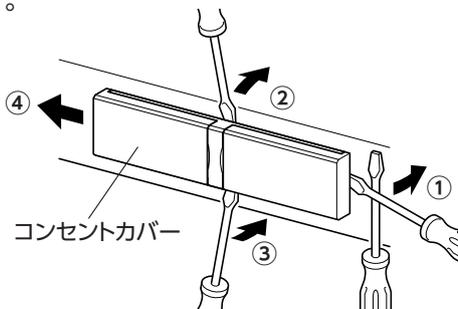


◻施工上のご注意

- コンセントユニット内に電源を引込む場合は、本体組立て後、電源ケーブルを引込んでからコンセントパーツの取付を行ってください (施工方法の詳細はP.21を参照)。
- コンセントカバーは閉じた状態で取付けてください。内蔵のばねが破損するおそれがあります。
- コンセント取付ビスがブラケットから出ないように取付けてください。コンセントカバーが破損するおそれがあります。

◻コンセントカバーの取外しかた

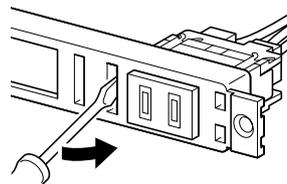
- ①～③の順に、取付面とコンセントカバーのすき間にマイナスドライバーを奥まで差込んで、コンセントカバーを浮かせる。
- ④の方向にコンセントカバーをスライドさせて取外す。



◻コンセントの取外しかた

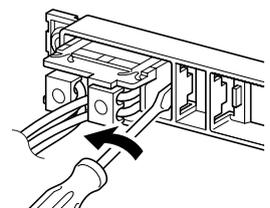
表側から取外す場合

内側の溝にマイナスドライバーを差込み、内側に倒して取外す。



裏側から取外す場合

溝にマイナスドライバーを差込み、ゆっくり回して取外す。

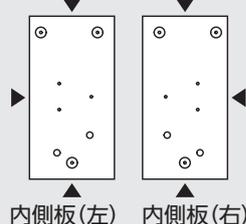


4. 内側板の組立て

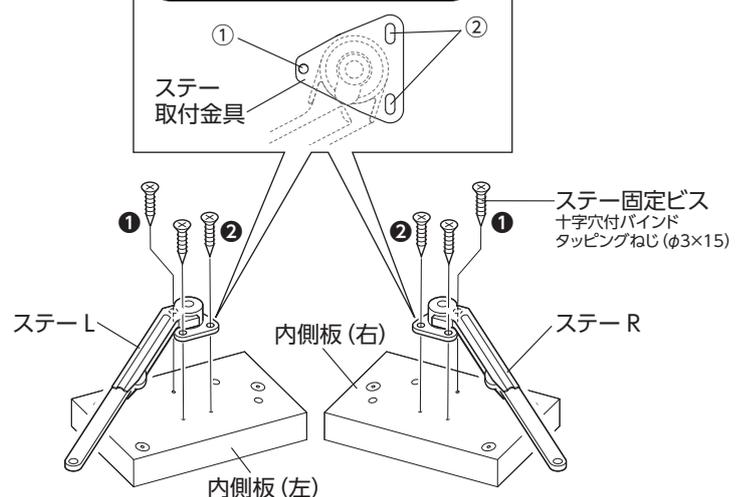
- ①ステーを内側板に取付ける (左/右両方)。

◻施工上のご注意

- ステーには右用と左用があります。金具裏面に刻印されているL/Rの印字を確認して取付けてください。
- 内側板には右用と左用があります。右図を参照して左右を確認して取付けてください。



ステービス固定の順番



2 組立て

図中の丸数字 (❶など) は、手順の丸数字を表しています。

⚠ 注意

必ず❶準備 (P.14) で加工や部材の組立てをしてから本体の組立てを行ってください。

1. 本体の組立て

※ここでは側板 (左) で説明していますが、側板 (右) も同様にしてください。

❶ 側板に接着剤を塗布・注入する。

⚠ 注意

❗ 裏板用溝に接着剤を確実に塗布してください。接着剤を塗布せずに組立てた場合、棚板が開き、自在棚が落下するおそれがあります。



❷ 側板に穴隠しキャップを差し込む。

◻ 施工上のご注意

オプションのスタンディングデスクを取付ける場合は穴隠しキャップφ8 (同梱) を差し込みません。

❸ 内側板 (ステー取付済) を側板に固定する。
※内側板は左右両方の側板に取付けてください。

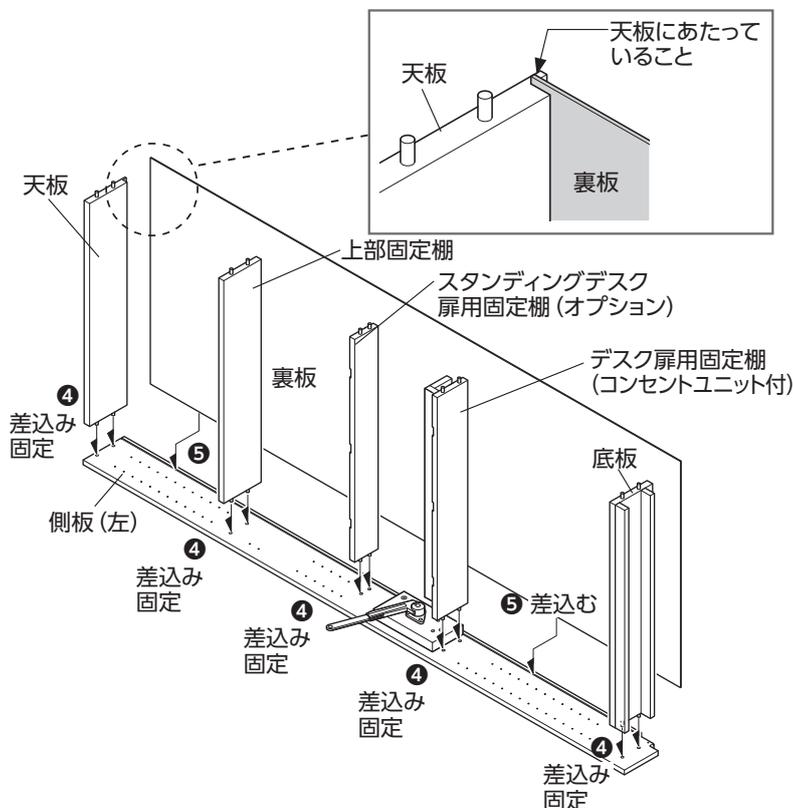
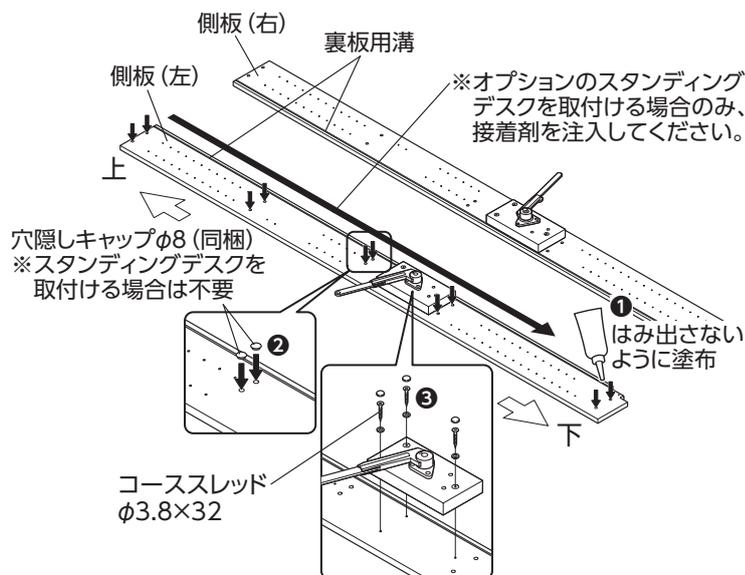
❹ 天板、上開きフラップ用固定棚、デスク扉用固定棚 (コンセントユニット付)、スタンディングデスク扉用固定棚、底板を側板 (左) に差し込み、固定する。

❺ 裏板を側板の溝に差し込む。

本体内部配線の場合

デスク扉用固定棚からコンセントを出してください。

❻ P.3で選択した配線方法別に、P.14で加工した裏板または側板 (右) の配線用穴から、コンセントを本体外に出しておく。



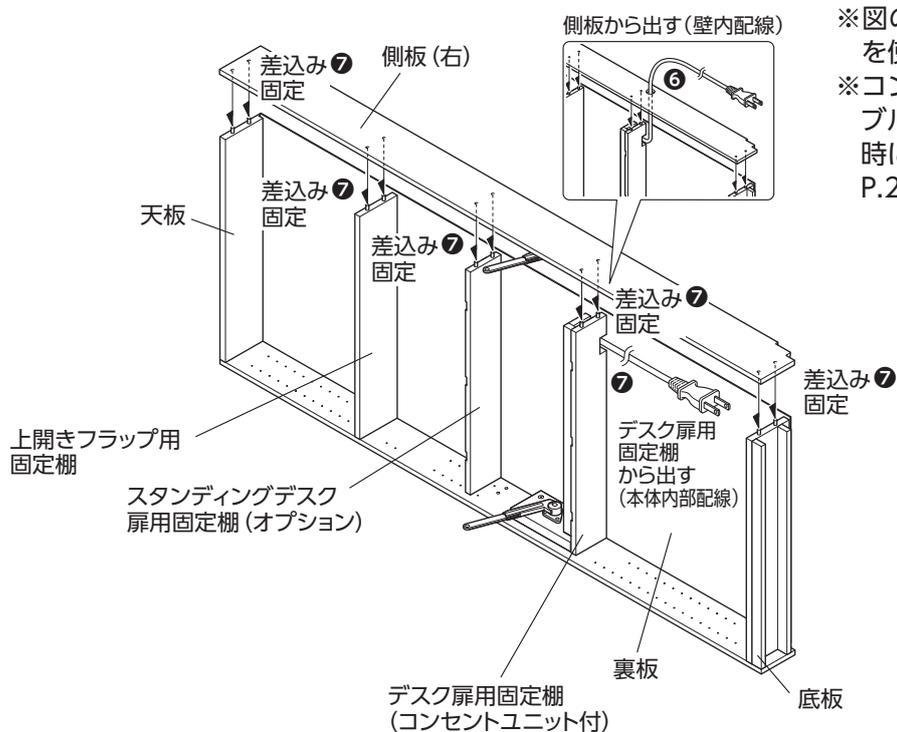
⚠ 警告

❗ コードを引っ張らないでください。断線して火災の原因になります。

❗ 水に濡れた手で作業しないでください。感電/火災の原因になります。

4 施工方法

- ⑦ 側板(右)を天板、上開きフラップ用固定棚、デスク扉用固定棚(コンセントユニット付)、スタンディングデスク扉用固定棚(オプション)、底板に差込み、固定する。

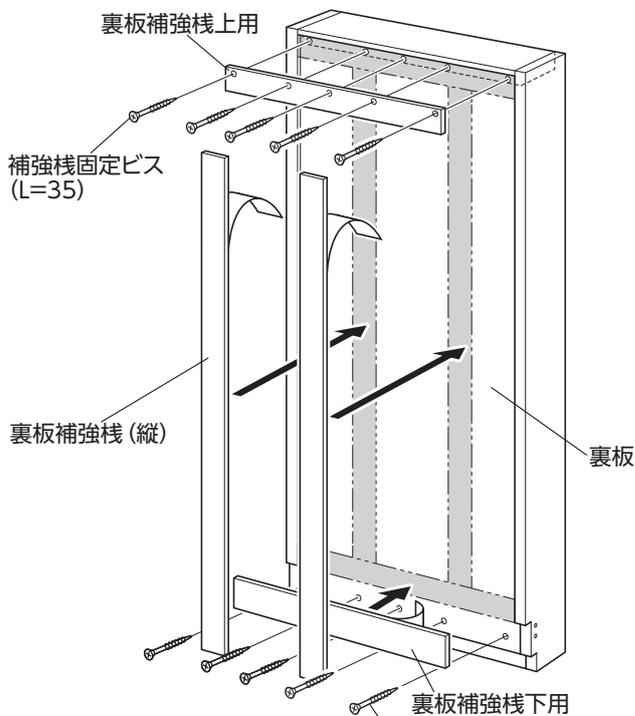


※図の配線方法は壁面のコンセントを使用する場合があります。
 ※コンセントユニット内に電源ケーブルを引込む場合は、本体壁固定時に行います(施工方法の詳細はP.21を参照)。

オンボード工法施工を行わない場合

ユニットの裏面に裏板補強棧を取付けてください。
 オンボード工法で施工する場合は、オンボード工法用裏板補強棧(別売)を使用します。

※ P.21「壁の固定方法」へ進んでください。



◀施工上のご注意

- 取付け場所の奥行きが117.5mm以上で裏板補強棧が壁面に接しない場合は、補強のために裏板下部を本体底板に向かってL:25程度のスリムビス(現場手配)で固定してください。

2. 本体の固定

⚠ 注意

- 前巾木を持って本体を持ち上げないでください。前巾木が折れて破損し、けがをするおそれがあります。



スリムビス(L:25程度)
 ※裏板補強棧が壁面に接しない場合のみ使用(現場手配)

3 オンボード工法施工の場合

この製品は、接着施工でオンボード工法用裏板補強棧を壁面へ取付けて、本体を固定します。
 オンボード工法用裏板補強棧の取付位置を決める方法は以下の2通りあります。どちらの方法で位置出しするか確認してください。

A 現物を使用して位置出しする ➡ P.18

B 寸法を測って位置出しする ➡ P.19

1. クロスをはがす

A 現物を使用して位置出しする場合

※本体組立て後に行います (P.16 ~ P.17)。

- 1 オンボード工法用裏板補強棧についている両面テープのはくり紙をはがして本体裏面に貼付ける。

オンボード工法用
裏板補強棧

シール
(本体側)

裏面

2
すべての
はくり紙を
はがす

1
はくり紙をはがして
貼付ける

4
本体をゆっく
り離す

3
本体を押
付ける

■施工上のご注意

オンボード工法用裏板補強棧は、下図のシールが貼付けてある方を本体側に向けて貼付けてください。

ユニット側

棧を表裏逆にしないよう
ご注意ください

- 2 反対側についている両面テープのはくり紙をすべてはがす。
- 3 本体を壁に押し付ける。
- 4 本体を壁からゆっくりはがし、オンボード工法用裏板補強棧を壁に貼付ける。

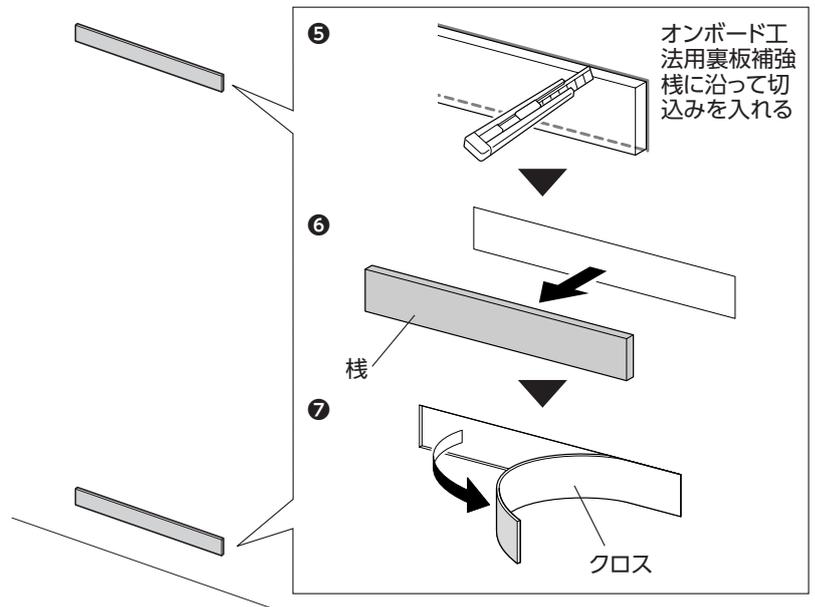
4 施工方法

- ⑤ 壁に残ったオンボード工法用裏板補強棧に沿って切込みを入れる。
- ⑥ オンボード工法用裏板補強棧を取外す。
- ⑦ 切込みを入れた部分のクロスをはがす。

◀施工上のご注意

- 壁下地を傷つけないように注意してください。
下地にキズがつくと、強度が低下するおそれがあります。
- クロスが残らないようにはがしてください。
クロスが残っていると、強度が低下するおそれがあります。

以降の手順は「2.上下のオンボード工法用裏板補強棧を準備する(P.20)」に進んでください。



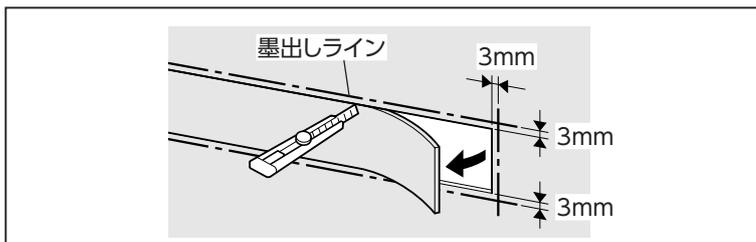
B 寸法を測って位置出しする場合

- ① プラン図面を確認して墨出しする。

◀施工上のご注意

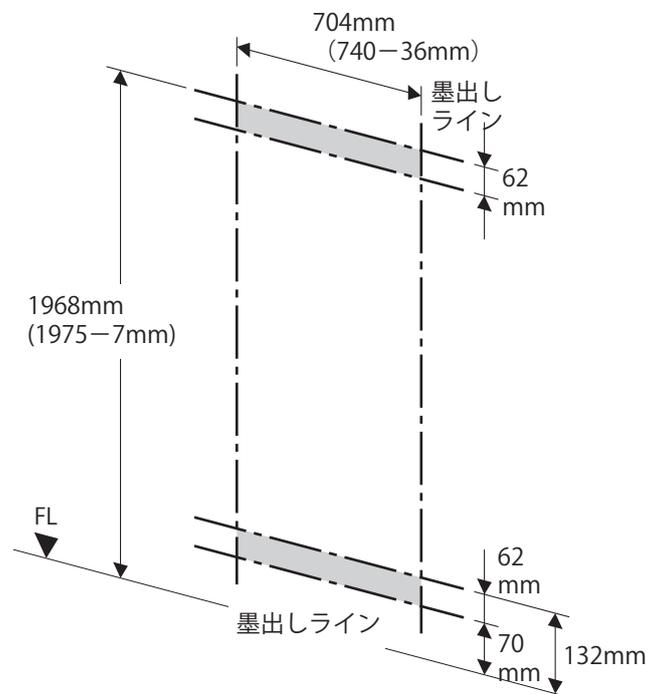
- オンボード工法用裏板補強棧は接着すると取外すことができません。墨出しは正確におこなってください。

- ② 墨出しラインの3mm内側に切込みを入れて、クロスをはがす。



◀施工上のご注意

- 壁下地を傷つけないように注意してください。
下地にキズがつくと、強度が低下するおそれがあります。
- クロスが残らないようにはがしてください。
クロスが残っていると、強度が低下するおそれがあります。



4 施工方法

2. 上下のオンボード工法用裏板補強棧を準備する

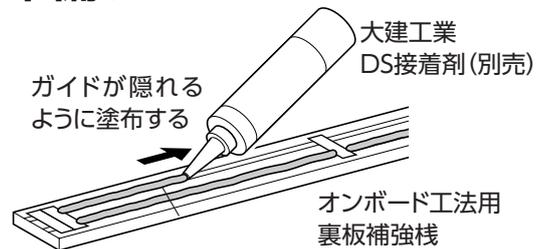
- ① 接着する壁面とオンボード工法用裏板補強棧のゴミやホコリを取除く。
- ② オンボード工法用裏板補強棧のガイドラインに沿って、接着剤を塗布する。

◻施工上のご注意

以下の内容を守らないと、接着不良になり、十分な強度が得られません。

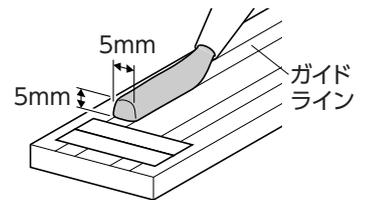
製品の落下や破損、けがをするおそれがあります。

- **施工可能温度**：室温5℃～35℃
- **接着剤を塗布してから、以下の時間内に壁面に貼付けてください。**
 - ・室温23℃の場合：10分以内
 - ・夏場30℃の場合：5分以内
- **固定部材が複数ある場合は、1本ずつ接着剤の塗布・接着をおこなってください。**
- **貼り合わせが可能な時間内に貼り合わせないと、接着不良になり、製品の落下や破損のおそれがあります。**



⚠注意

ガイドラインが隠れるように(ビード径5mm以上)接着剤を塗布してください。



※DS接着剤は、棧6mあたり1本必要

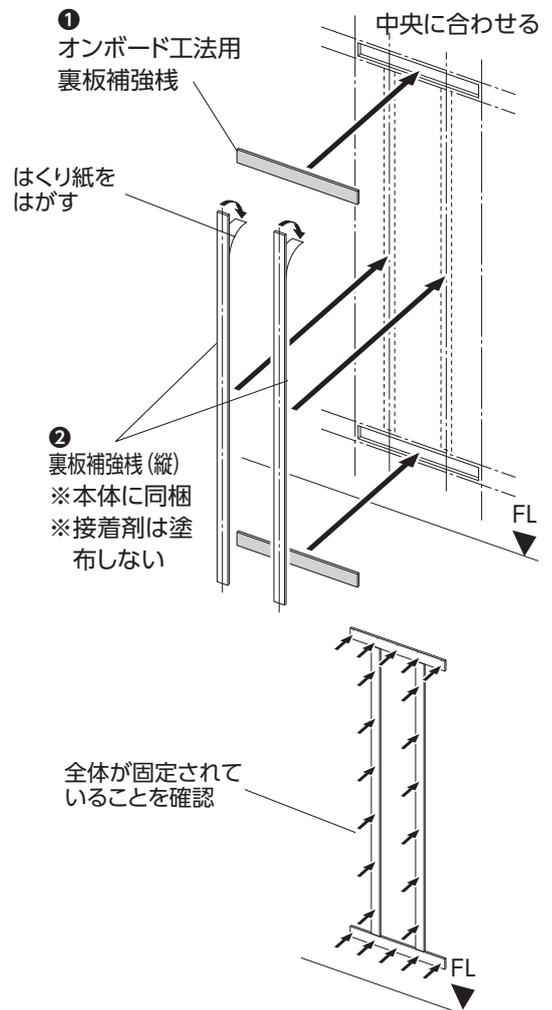
❗ **必ず専用接着剤をお使いください。**
専用接着剤以外を使うと接着効果が変わり、製品の落下や破損のおそれがあります。

3. オンボード工法用裏板補強棧を固定する

- ① 裏面の両面テープのはくり紙をすべてはがし、オンボード工法用裏板補強棧をクロスをはがした部分に貼付ける。
- ② オンボード工法用裏板補強棧を全体的にしっかり押しつけて圧着させる。
- ③ 本体に同梱されている裏板補強棧(縦)の裏面の両面テープのはくり紙を全てはがし、オンボード工法用裏板補強棧を3等分する間隔で貼付ける。
- ④ 1時間以上養生させる。

◻施工上のご注意

- **オンボード工法用裏板補強棧の養生のために、ビスや釘、タッカーを打たないでください。**
接着力不足になります。
- **接着後は1時間以上養生させてください。**
接着後すぐは強度が十分ではありません。
- **裏板補強棧接着後は、接着力が強力なため位置の修正ができません。**
墨出位置は、左右に3mmずつのクリアランスを設けていますが、墨出しラインからずれないように貼付けてください。
- **養生テープで養生する場合、ガムテープや粘着力の強力なものを使わないでください。**
はがすときに壁面の表面に損傷を与えることがあります。



4. 接着の確認

1時間以上の十分な養生のあと、オンボード工法用裏板補強棧と縦棧が確実に固定されていることを確認する。

4 施工方法

4 壁の固定方法



警告

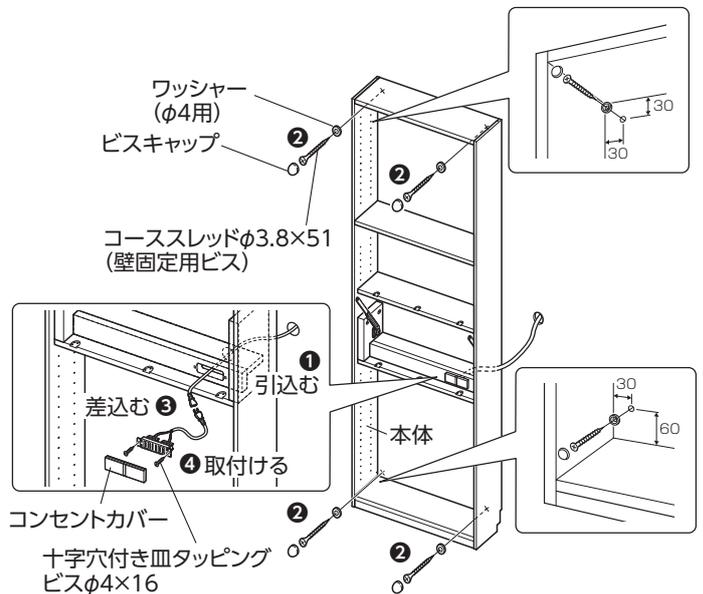


コンセントの再結線を行う場合は、必ず「電気工事士」の資格を有する方がおこなってください。

標準施工の場合

※右図は裏板配線の例です。

- 裏板の加工穴からコンセントユニット内部に電源ケーブルを引込む。
- 本体を壁固定ビス (コーススレッドφ3.8×51) で壁に固定する (4点)。
- コンセントプラグをコンセントに差込む。
- コンセント取付穴にコンセントパーツをビスで取付けてからコンセントカバーを付ける。



オンボード工法用裏板補強棧 (別売)

警告

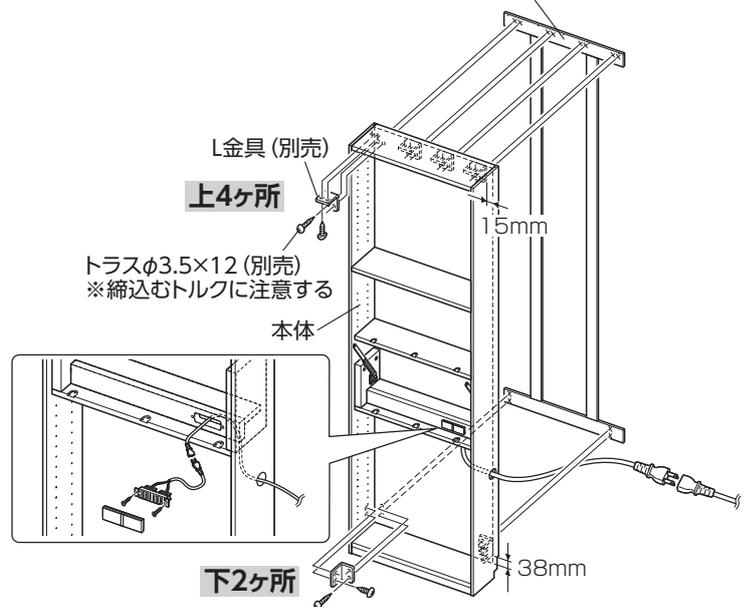
- コードを引っ張らないでください。断線して火災の原因になります。
- 水に濡れた手で作業しないでください。感電/火災の原因になります。

※標準施工の場合は、裏板配線以外に側板配線、本体内部配線が可能です。

オンボード工法施工の場合

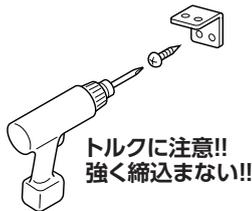
※右図は側板配線の例です。

- 本体を上下のオンボード工法用裏板補強棧にすき間なく当てる。
- 本体を上下のオンボード工法用裏板補強棧にL金具 (別売) とビス (別売) で固定する。(オンボード工法用L金具セット6入り 品番: FLK744-62)



注意

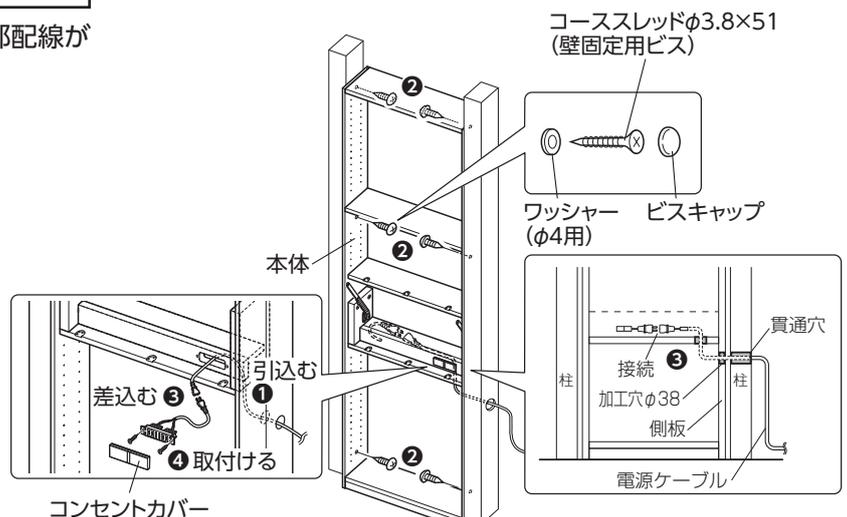
- 本体の背板と裏板補強棧を固定するトラスビス (φ3.5×12) を電動工具などで固定する場合、ビスを締込むときのトルクに注意してください。強いトルクで締め過ぎると、固定強度が低下し、製品の転倒や破損、けがをすることがあります。



※オンボード工法施工の場合は、側板配線、本体内部配線が可能です。

壁埋込施工の場合

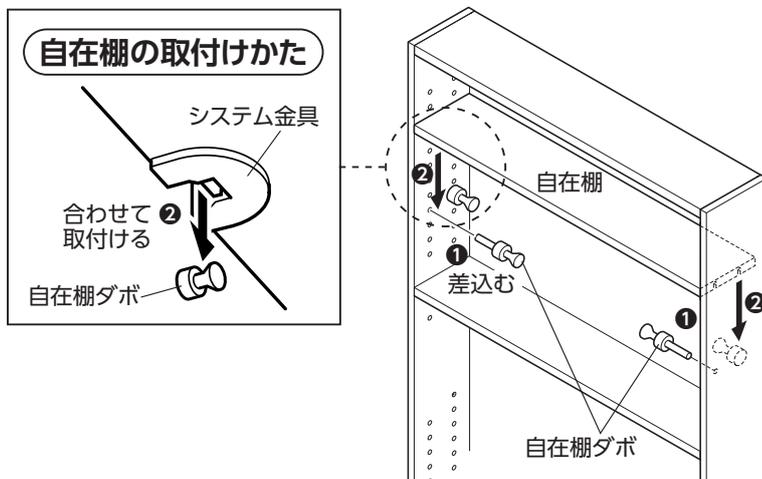
- 側板の加工穴と柱の貫通穴からコンセントユニット内部に電源ケーブルを引込む。
- 壁固定用ビス (コーススレッドφ3.8×51) で側板から柱に固定する (6点)。
- コンセントプラグをコンセントに差込む。
- コンセント取付穴にコンセントパーツをビスで取付けてからコンセントカバーを付ける。



5 自在棚と巾木避けカバーの取付け

1. 自在棚の取付け

- 自在棚ダボを側板のダボ穴に差込む。
- 自在棚を、システム金具と自在棚ダボの位置を合わせて取付ける。

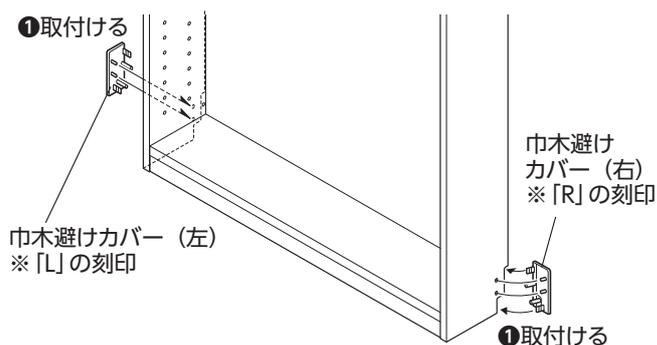


2. 巾木避けカバーの取付け

設置する壁面に巾木があるかを確認してください。
 ※壁埋込施工の場合は巾木避けカバーは不要です。

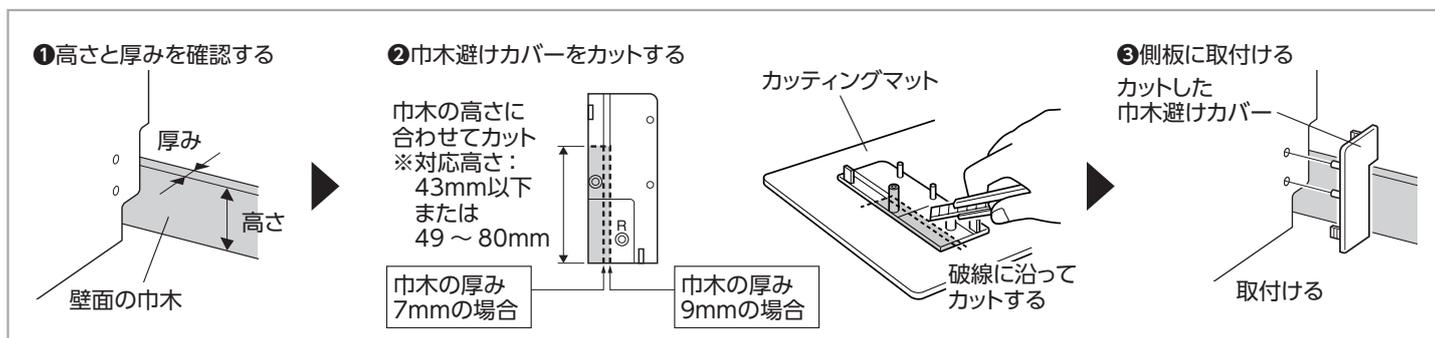
壁面に巾木がない場合

- 巾木避けカバーを側板に取付ける。



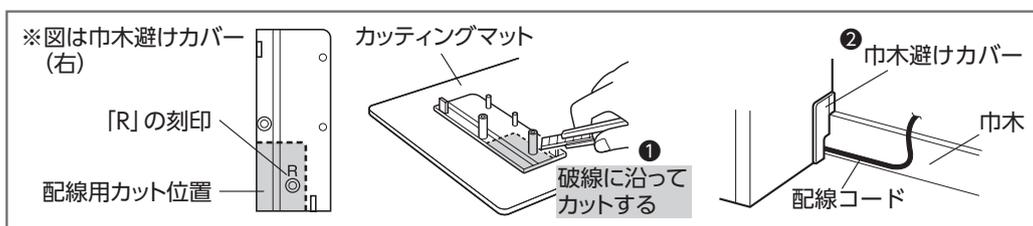
壁面に巾木がある場合

- 壁面の巾木の高さと厚みを確認する。
- 巾木避けカバーをカッティングマットにのせ、巾木の高さと厚みに合わせてカットする。
- 巾木避けカバーを側板に取付ける。



本体内部配線の場合

- 巾木避けカバーをRの位置でカットする。
- 配線コードを通して巾木避けカバーを取付ける。

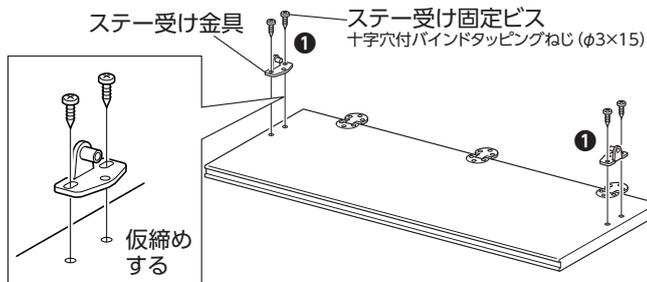


6 デスク扉・スタンディングデスク扉(オプション)の取付け

図中の丸数字(①など)は、手順を表しています。

1. デスク扉の取付け

- ① ステー受け金具をデスク扉/スタンディングデスク扉の左右に仮締めする。



デスク扉の場合

- ② デスク扉を固定棚(デスク取付用)に取付ける。

ドロップ丁番
固定ビス
サラφ2.7×16

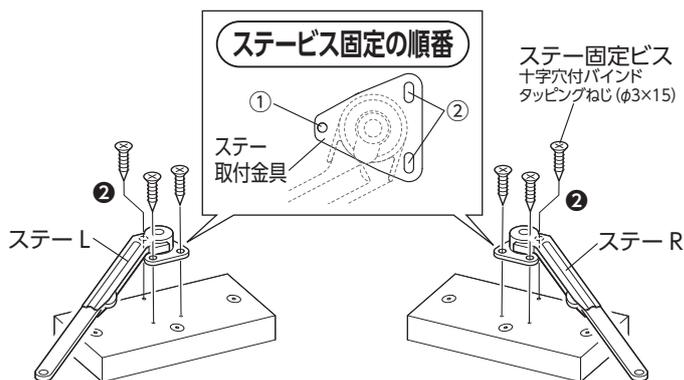
ドロップ丁番

取付ける

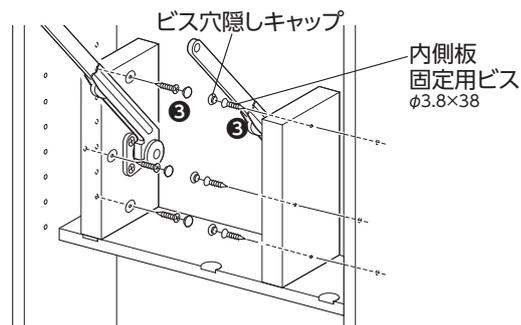
デスク扉

スタンディングデスク扉の場合 ※オプション

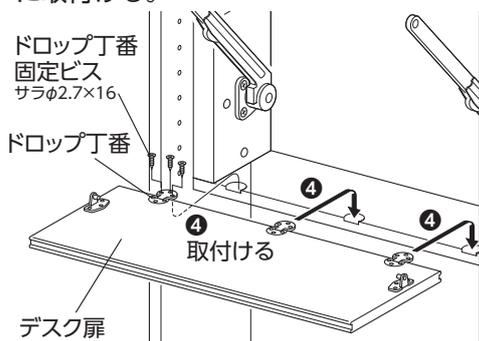
- ② ステーをスタンディング用内側板に取付ける(左右ともに)。



- ③ スタンディング用内側板を側板に内側板固定用ビスφ3.8×38で取付け、ビス穴隠しキャップφ13を取付ける。



- ④ スタンディングデスクは、スタンディングデスク用固定棚に取付ける。



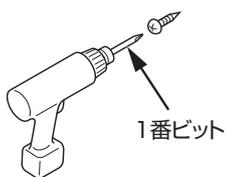
⚠ 注意



1番ビットを使用してください。

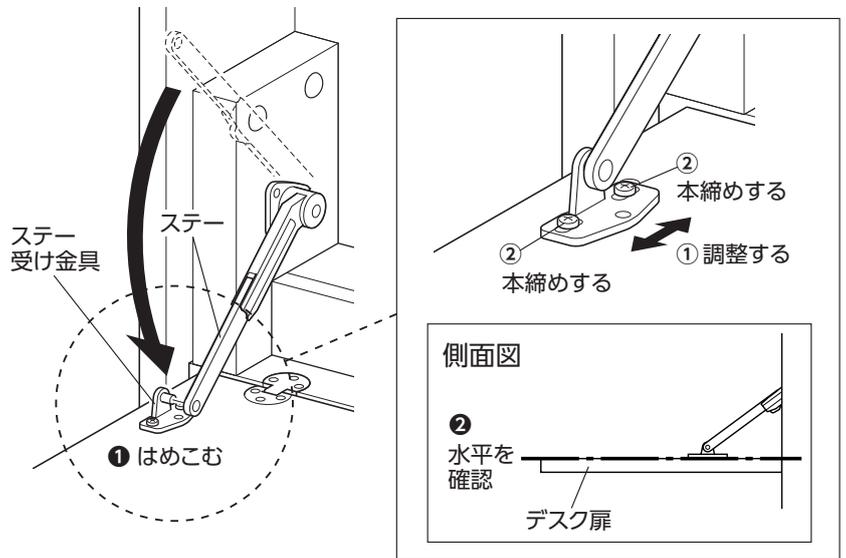
※ドロップ丁番取付時のみ

※ビスのねじ穴がつぶれないように注意してください。



2. ステアと扉の接続

- ① ステアの先端の穴をステア受け金具にはめこむ。
- ② デスク扉の水平を確認する。
①ステア受け金具の位置を調整する。
②仮締めしたボルトを本締める。



⚠ 注意



金具の開閉時に指を挟まないようにしてください。
けがをすることがあります。

- ③ リード穴を開けてからステア受け金具を固定する。
- ④ ステア連結ネジ (トラス小ネジ) を取付ける。

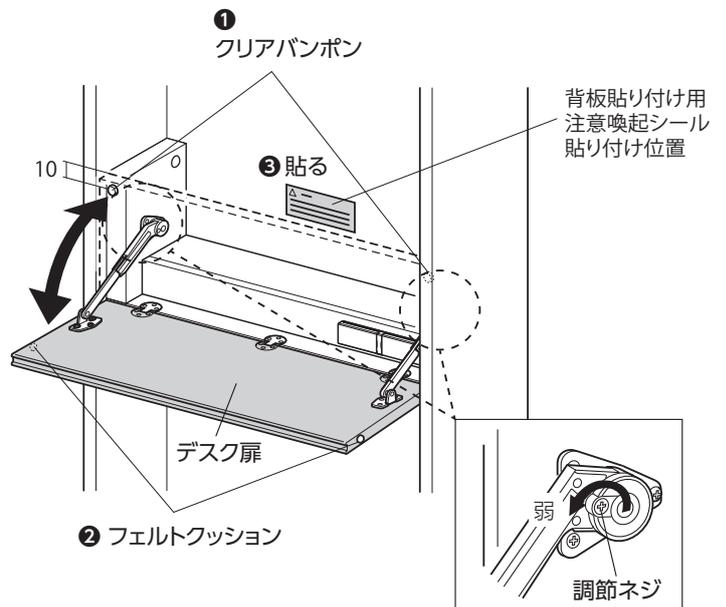
ステア受け固定ビス
十字穴付バインドタッピングねじ (φ3×15)



3. デスク扉の開閉確認

デスク扉を開閉してみて、開閉しにくい場合は、ステア金具の調節ネジで調整してください。

- ① 内側板の上から10mmの位置にクリアバンポンを取付ける (両側)。
- ② デスク扉の側面にフェルトクッションを取付ける (両側)。
- ③ 背板貼り付け用注意喚起シールを背板に貼る。



7 中央両開き扉・上部両開き扉 (オプション) の取付け

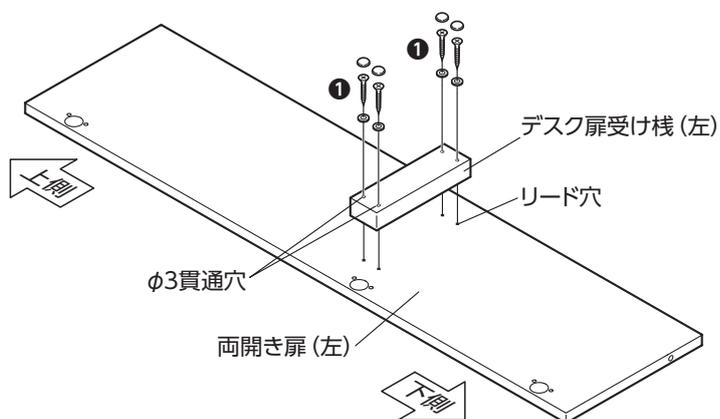
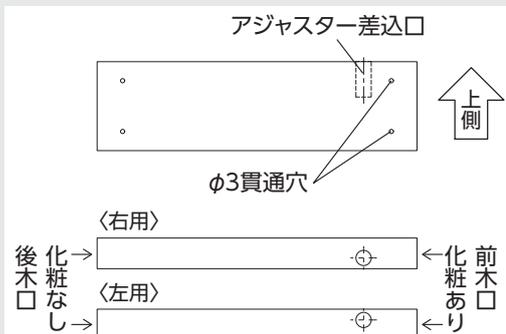
図中の丸数字(①など)は、手順を表しています。

1. デスク扉受棧の取付け

- ① デスク扉受け棧をコーススレッドφ3.8×45ビスで固定する。

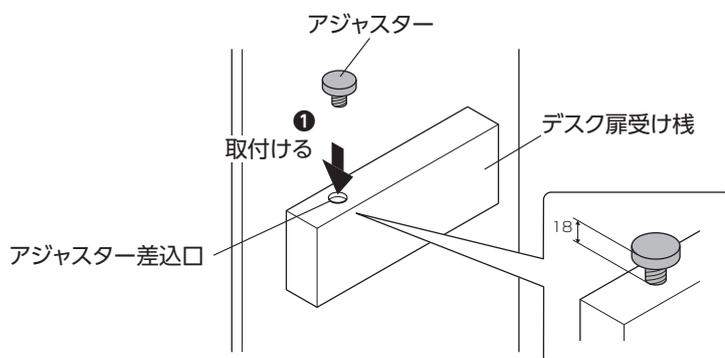
■施工上のご注意

- デスク扉受け棧には上下左右があります。取付前に、上下左右が合っているか確認してください。



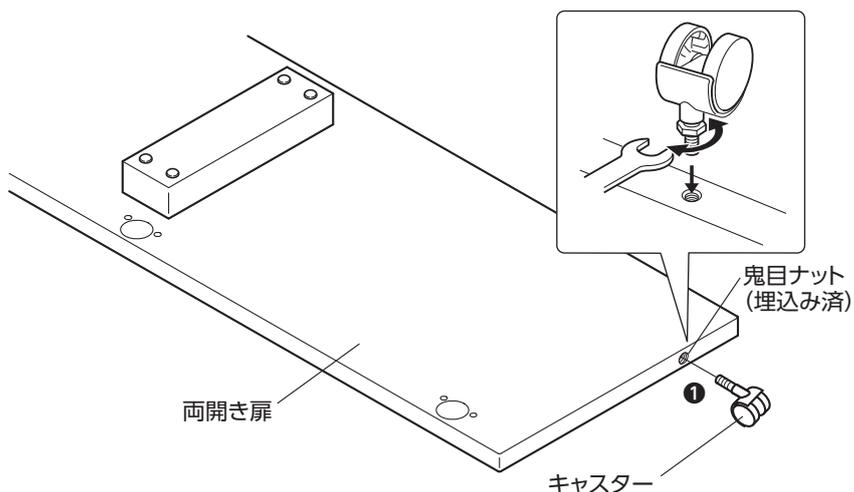
2. アジャスターの取付け

- ① デスク扉受棧のアジャスター差込口にアジャスターを取付ける。
※アジャスターの飛び出しが18mm程度になるように鬼目ナットに取付けてください。



3. キャスターの取付け

- ① キャスターを鬼目ナットに差込んで時計回りに回す。
※キャスターで高さの調整を行います。きつく締めすぎないでください。



4. 丁番の取付け

- ① 丁番加工穴に丁番をはめ込み、ビスで固定する。

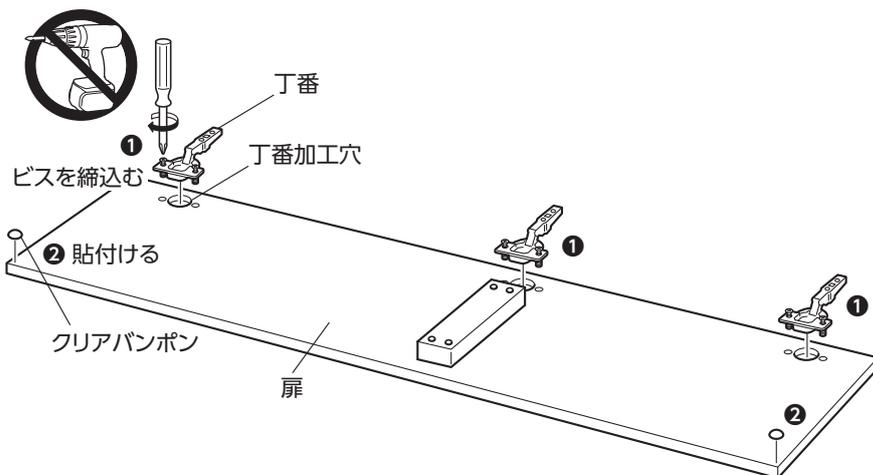
◻施工上のご注意

- 丁番の取付前に、丁番加工穴の中に木くずやゴミが入っていないか確認してください。

⚠注意

- 丁番の取付後、金具と扉の間にすき間がないことを確認してください。取付時に不備があると、扉が脱落するおそれがあります。

- ② クリアバンポン (2カ所) を、天板または底板と固定棚の前木口に当たるように貼付ける。



〈中央両開き扉の場合〉

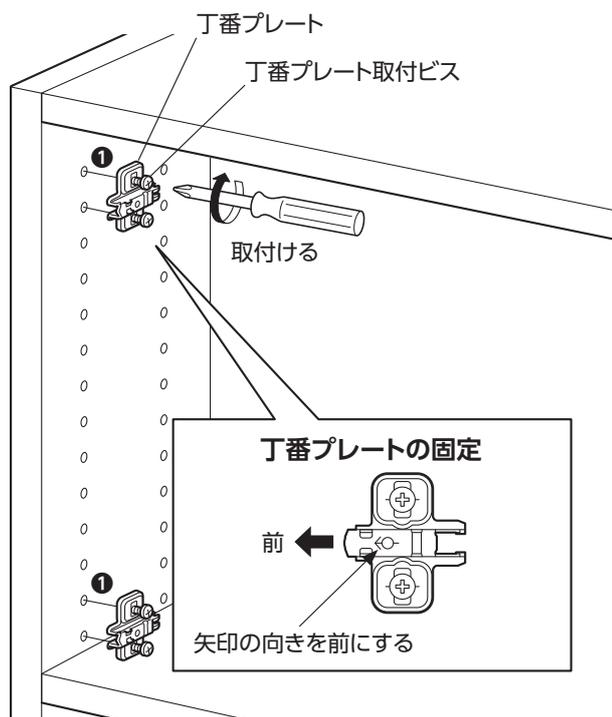
5. 丁番プレートの取付け

- ① 側板の図の位置に丁番プレートを取り付ける。

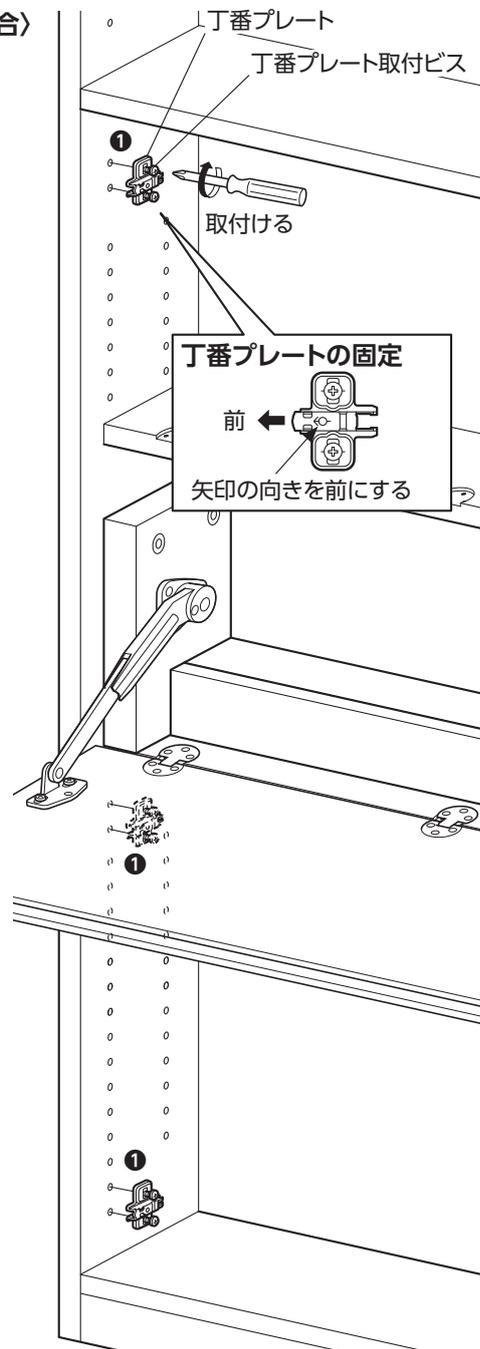
◻施工上のご注意

- 丁番プレートの矢印が前を向くように取付けてください。丁番プレートは片側につき3箇所に取り付けます。最下段の丁番プレートのみ、ダボ穴に取り付けます。

〈上部両開き扉の場合〉

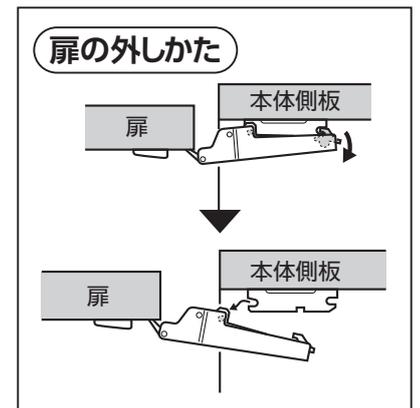
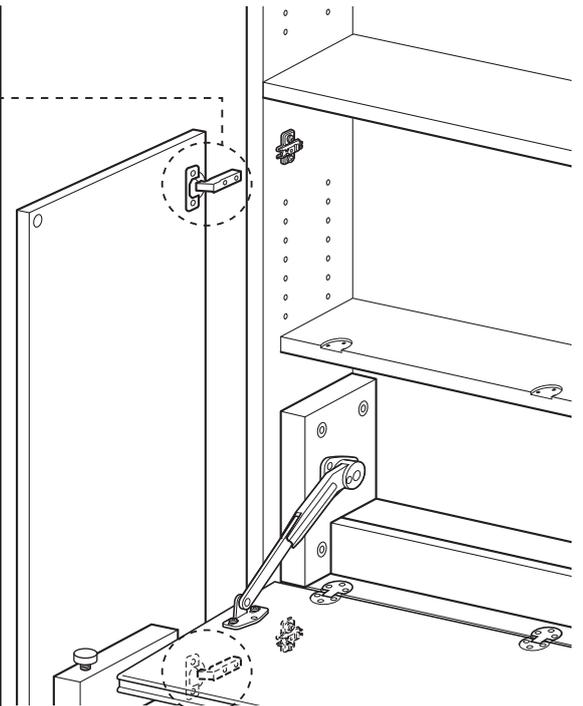
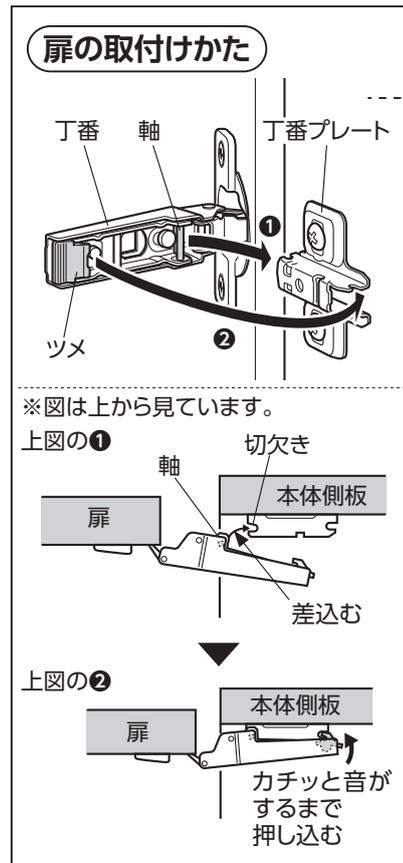


〈中央両開き扉の場合〉



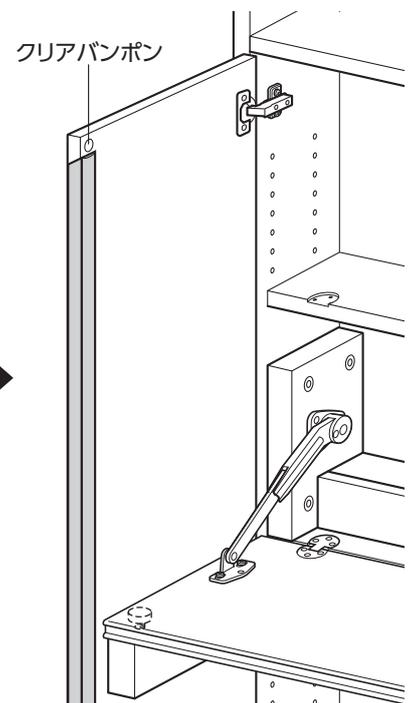
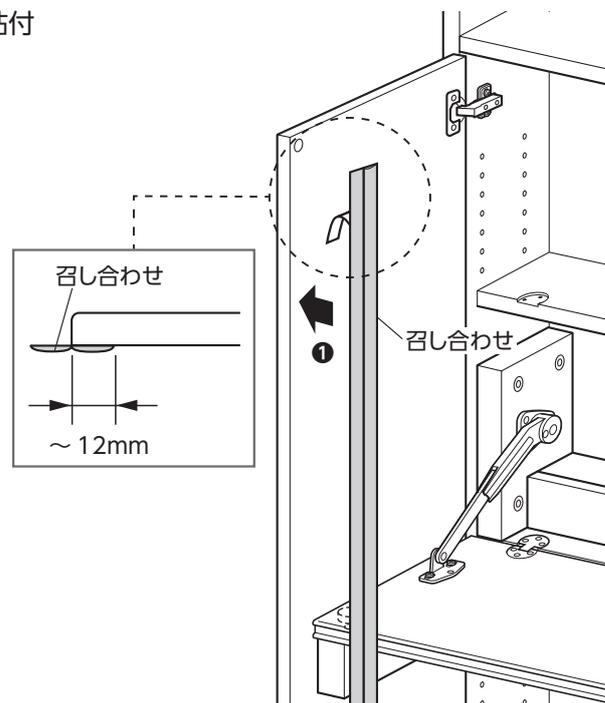
6. 扉の取付け

- ① 丁番の軸を、丁番プレートのツメに差込む。
- ② 丁番先端のツメを丁番プレートに押込む。



7. 召し合わせの取付け

- ① 扉の固定後、召し合わせを貼付けて扉と扉のすき間を隠す。

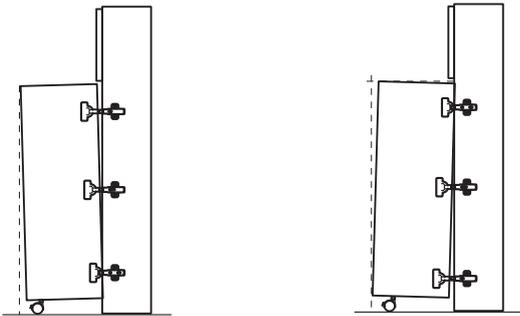


8. 中央両開き扉の調整

① 扉を開いた状態で、キャスターが床に設置する高さに扉位置を調整する。

② 扉の開閉を行い、開閉がしにくい場合は扉の前後位置を調整する。

〈キャスターが浮く場合〉 〈キャスターが引っかかる場合〉

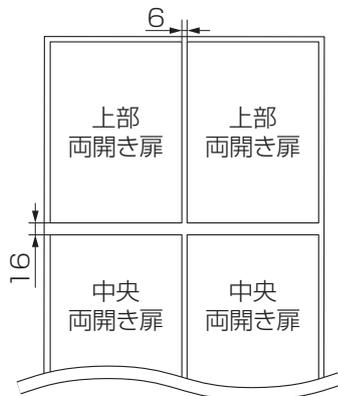


扉の上部側が前に出るように調整

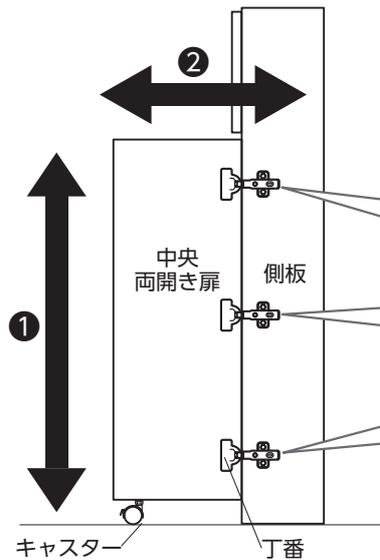
扉の下部側が前に出るように調整

③ 扉を閉めて、右図寸法に合わせて中央両開き扉の左右位置を調整する。

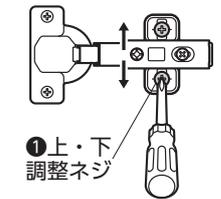
※上部両開き扉がある場合は、同様に扉の上下左右の位置調整を行ってください。



④ 再度扉の開閉確認を行い、開閉がしにくい場合はキャスターを調整してください。



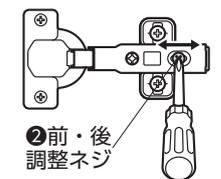
上下位置を調整する場合



① 上・下調整ネジ

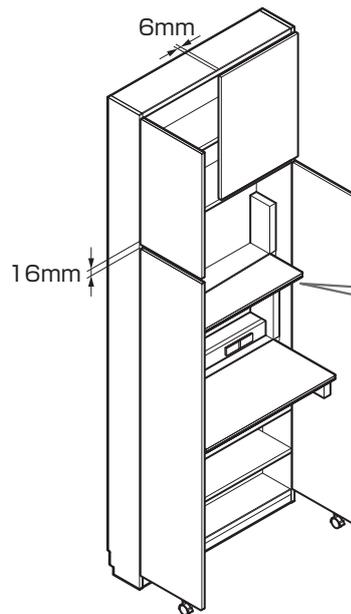
上・下調整ネジをゆるめ、扉の上下位置を調整後、締め直してください。

前後位置を調整する場合

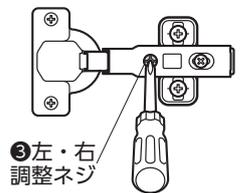


② 前・後調整ネジ

前・後調整ネジをゆるめ、扉の前後位置を調整後、締め直してください。



左右位置を調整する場合



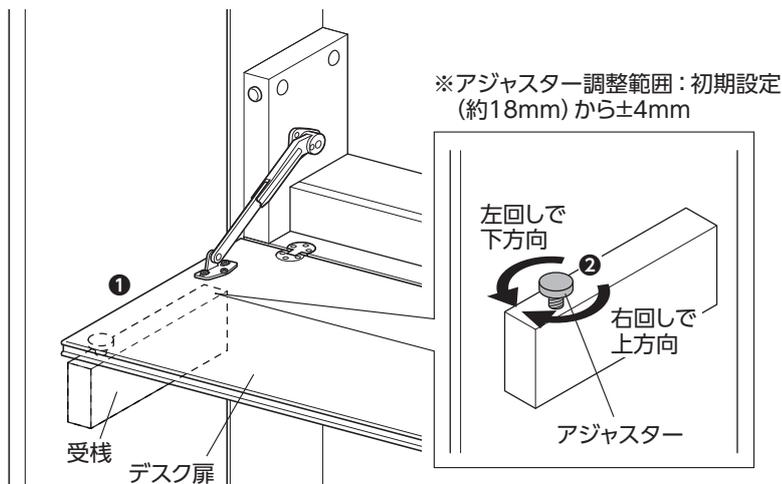
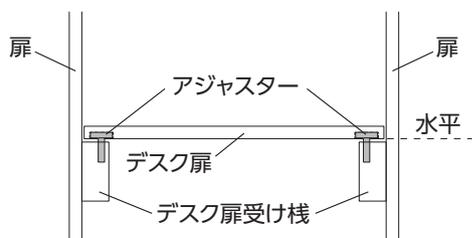
③ 左・右調整ネジ

前・後調整ネジを締めた状態で、左・右調整ネジを回し、扉の左右位置を調整してください。

4 施工方法

9. デスク扉の水平調整

- ① デスク扉を受栈に乗せる。(裏面の受部材とアジャスターが嵌合するように)
- ② 左右の扉のアジャスターを回し、デスク扉が水平になるように調整する。



⚠ 注意

- ❗ 本製品は畳やカーペットの上には設置できません。また、クッション性のある床材 (防音フロアなど)の上にも設置はできません。設置されると製品の故障や床面を傷つける恐れがあります。
- ❗ スタンディング用デスク (オプション) は、必ずデスク部を開いた状態で、両開き扉との嵌合を完了させた後に調整をおこなってください。その時、両開き扉のガタツキでスタンディング用デスクとのすき間に指などが挟まれないかの確認を必ず行ってください。不完全な状態の場合はケガの恐れがあります。

10. 耐震ロックの取付け

耐震ロックの取付方法には2種類あります。現場の状況に合わせて、耐震ロックを取付けてください。

- 別売の取付用治具を使用し取付ける
- 寸法を測って取付ける

□施工上のご注意

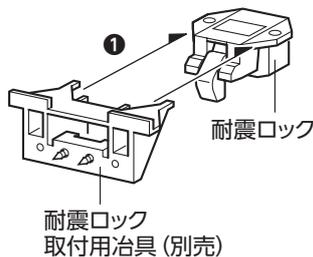
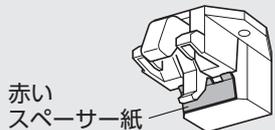
- 耐震ロックを取付ける前に必ずすべての扉を調整してください。(→P.28)
耐震ロックを取付けた後に扉を調整すると、耐震ロックが正常に作動しないおそれがあります。

A 取付治具 (別売:FLK771) を使用する場合

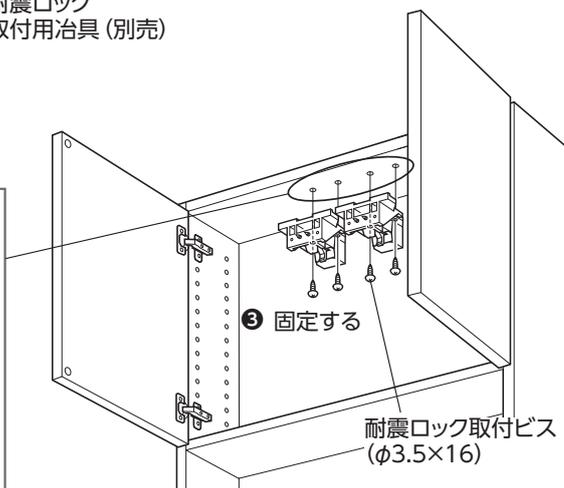
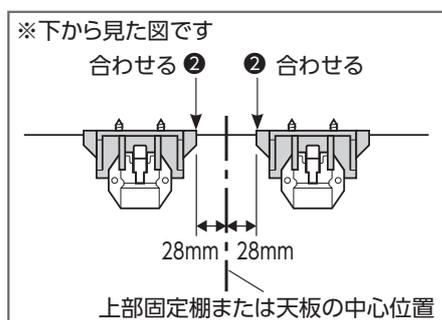
- ① 耐震ロック取付用治具を、耐震ロックにはめ込む。

□施工上のご注意

- 取付けが終わるまで赤いスペーサー紙をはがさないでください。



- ② 耐震ロック取付用治具を、図の位置に当てる。
- ③ 耐震ロックを、上部固定棚または天板にビスで固定する。

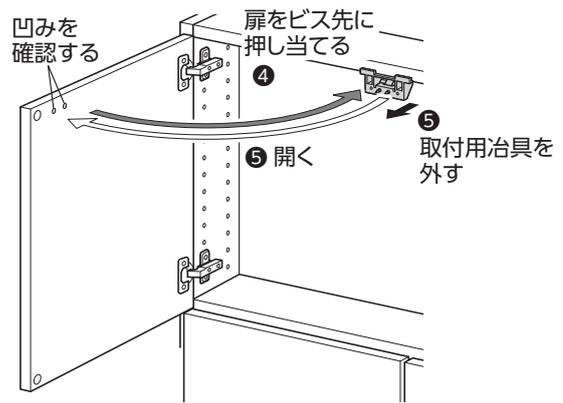


4 施工方法

④ 扉をゆっくり閉め、耐震ロック取付用治具のビス先に押し当てる。

⑤ 扉を開き、耐震ロック取付用治具のビス先で付けられた凹みを確認する。

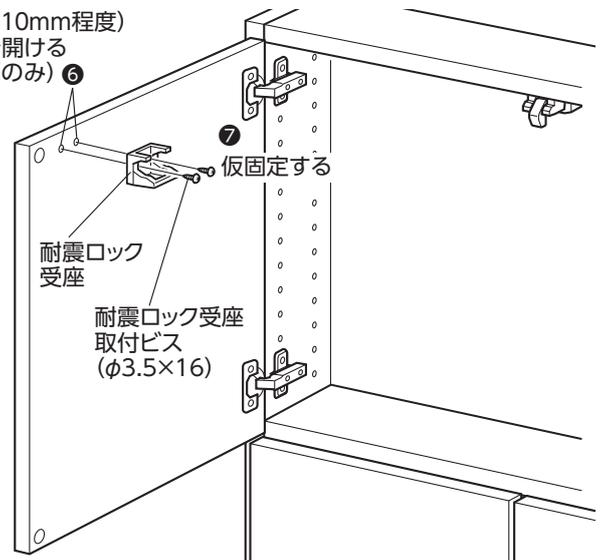
※凹みがしっかり付いている場合は、耐震ロック取付用治具を外してください。凹みが小さい場合は再度扉を閉めて、しっかりビス先に押し当ててください。



⑥ 扉の凹みにφ2 (深さ10mm程度) の下穴を開ける。

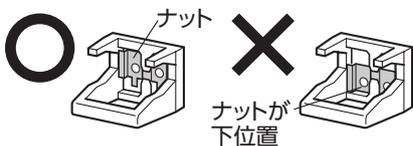
⑦ 耐震ロック受座を扉に、ビスで仮固定する。
※耐震ロック受座は、耐震ロックとの位置調節してから固定します。

φ2 (深さ10mm程度) の下穴を開ける (ウッド扉のみ) ⑥



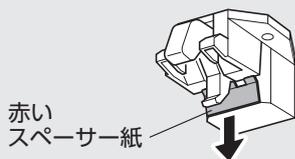
⚠ 注意

耐震ロック受座のナットを上位置にして扉に取付けてください。ドライバーと受座が干渉して取付けできません。



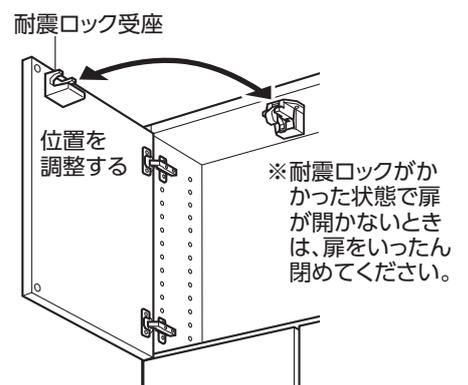
◻ 施工上のご注意

● 取付け後、赤いスペーサー紙をはがしてください。



耐震ロック受座の位置調整

取付け後、扉がスムーズに閉まるように、耐震ロック受座の位置を調整し、確実に固定する。



※耐震ロックがかかった状態で扉が開かないときは、扉をいったん閉めてください。

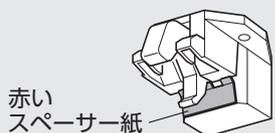
4 施工方法

B 寸法を測って取付ける場合

- 寸法を測り、天板と扉にφ2（深さ10mm程度）の下穴を開ける。

◻施工上のご注意

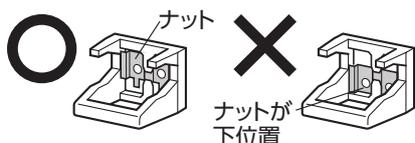
- 取付けが終わるまで赤いスペーサー紙をはがさないでください。



- 耐震ロックを、天板にビスで固定する。
- 耐震ロック受座を扉に、ビスで仮固定する。
※耐震ロック受座は、耐震ロックとの位置調節してから固定します。

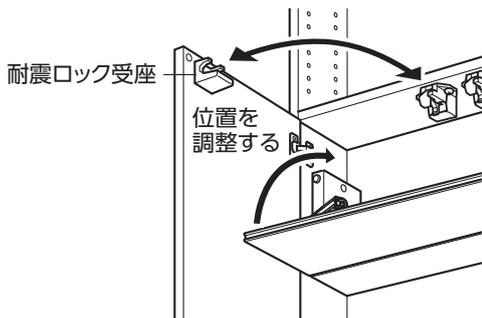
⚠注意

- 耐震ロック受座のナットを上位置にして扉に取付けてください。
ドライバーと受座が干渉して取付けできません。



耐震ロック受座の位置調整

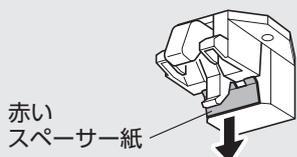
取付け後、扉がスムーズに閉まるように、耐震ロック受座の位置を調整し、確実に固定する。



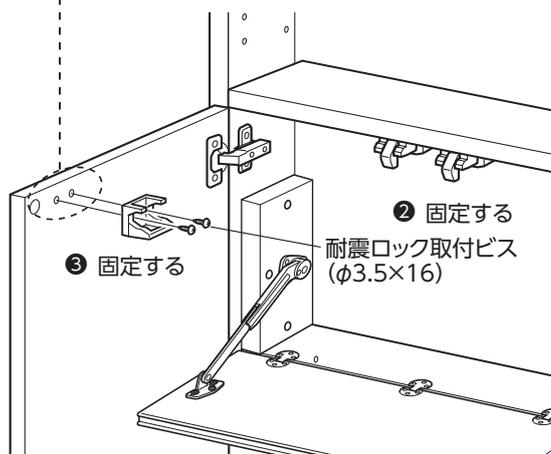
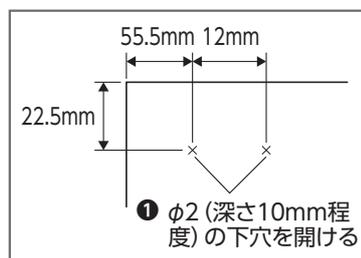
※耐震ロックがかかった状態で扉が開かないときは、扉をいったん閉めてください。

◻施工上のご注意

- 取付け後、赤いスペーサー紙をはがしてください。

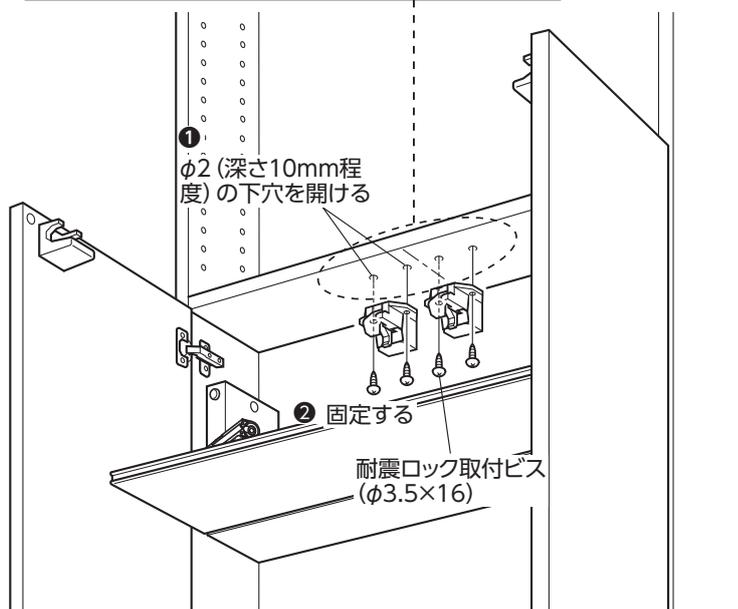
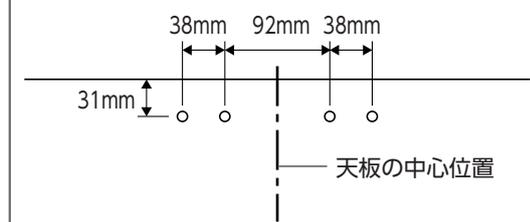


〈扉側の穴加工〉



〈天板・上部固定棚の穴加工〉

耐震ロックの取付位置



耐震ロックが掛かった状態で開き扉が開かないとき

施工中に耐震ロックがかかり、扉が開かなくなった場合、P.37を参照して扉のロックを解除してください。

1 お使いになる前に

安全上のご注意 (必ずお守りいただきたいこと)

この説明書に書かれた注意事項は、あなたや他の人への危害や物的損害を防ぐためのものです。必ずお守りください。

警告表示の種類と内容



警告

誤った取扱いにより死亡や重傷などに結びつく可能性のある内容



注意

誤った取扱いにより傷害または家屋・家財などの損害に結びつく内容

本文中に使われている図・記号の意味は次のとおりです。



してはいけない内容です



必ず実行していただく内容です

お願い

留意事項、操作方法、使用・お手入れ方法など

警告



お客様で、製品の解体や移設・レイアウト変更をしないでください。

組立・施工が不十分ですと、破損や落下によりけがをする原因になります。必ずお買い上げの販売店、工事店にご相談ください。

注意



乱暴な取扱いや収納家具としての用途以外の使用はしないでください。

けがや故障・破損の原因になります。



ストーブなど火気を近づけて使用しないでください。やけどや火災の原因になります。



製品の上で立ち上がったり、足や腰を掛けたりしないでください。また、もたれ掛かったり、ぶら下がったり、体重をかけることは避けてください。(特にお子様には注意してください。)

転倒や転落により、けがをする原因になります。



製品に登らないでください。

棚が外れたり、本体が倒れて、けがをする原因になります。



耐荷重を超えて、ものをのせたり収納したり、引っ掛けたりしないでください。

破損や脱落、ものの落下により、けがをする原因になります。

※各製品の耐荷重は、P.33を参照してください。



可動部に注油しないでください。

油がたれて床や衣類を汚す原因になります。



製品の分解や改造をしないでください。

けがや故障の原因になります。



ボルトやネジがゆるんだままで使用しないでください。

本体の変形・破損や転落により、けがをする原因になります。早めに締め直してください。



製品に貼ってあるラベルを、はがさないでください。

誤った使いかたや事故を防止するためのものです。



本製品は耐キャスター性能のある床材の上への設置用です。

キャスター対応でない場合は床に傷を付ける恐れがあります。



本製品は畳やカーペットの上には設置できません。また、クッション性のある床材(防音フロアなど)の上にも設置はできません。

設置されると製品の故障や床面を傷つける恐れがあります。



可動部に、手や指、衣服などをはさまないように注意してください。

けがをするおそれがあります。



扉などを開閉するときにはゆっくりおこない、手や指、衣服などをはさまないように注意してください。

勢いよくおこなうと、けがや破損するおそれがあります。



棚板などが確実に取り付いていることを確認してから、ものを収納してください。

外れかけていたり、ゆるんだ状態で収納すると、収納物が落下してけがをするおそれがあります。



床を傷つけないよう、キャスターの稼働部には薄い敷物をする等床面を保護してください。

1 お使いになる前に

使用上のご注意

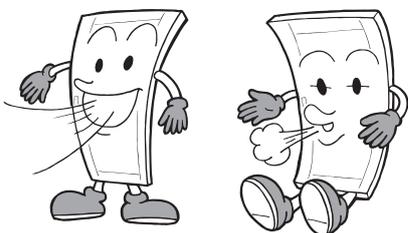
- 一般家庭用品を収納し、簡易的なデスクとして使用する製品となります。ただし、次のような危険なものは収納しないでください。
1) 油やシンナーなどの可燃物や薬品 2) 鉄アレイ等の過度に重いもの 3) その他危険物
- 下記の耐荷重を守ってご使用ください。
耐荷重(均等に荷重がかかった場合)

部位名称	耐荷重
デスク扉	20kg
スタンディングデスク扉(オプション)、上部固定棚/自在棚	10kg

- 使用を開始してから、収納したものの重量や床の状態により、製品にゆがみが出て、垂直や水平でなくなったり、すき間が目立ったりすることがあります。各部の確認と調整をおこなってください。不具合が出たまま使用していると、故障の原因になります。
- この製品に以下のものを直接置かないでください。
なべ敷など敷物を敷いてください。
 - ・ 熱い湯のみや加熱したなべ・やかんなど、熱を発するもの
 - ・ 金属や陶器など、硬いもの
 変色や変形、発火、傷がつく原因になります。
- ときどき、ボルトやネジのゆるみによるガタツキがないか点検し、ある場合は締め付けてください。
- この製品に以下のものをこぼしたままにしたり、収納したり、放置したりしないでください。
水分は残らないように拭き取ってください。
 - ・ 飲み物などの水分、ぬれたもの
 - ・ ビニールなどの樹脂製品やゴム製品
 - ・ 入浴剤や毛染液など染料の強い薬剤
 - ・ 酸・アルカリ性溶剤、有機溶剤
 変色や変形、軟化、ひび割れ、反り、サビ、色移りの原因になります。
- 樹脂製品(ゴム等)は長時間同じ場所に置かないよう配慮してください。また、デスク使用後は消しゴムかす等は速やかに除去してください。

木質収納扉の反りについて

木材を原料とする木質材料【合板、パーティクルボード、MDF(ミディアムデンシティファイバーボード)など】を加工して作られた製品は、空気中の水分を吸収したり放出したりすることにより、伸縮する特性を有しています。この空気中の水分の吸収・放出は、温度、湿度などの環境条件の変化に応じて発生するものであり、自然現象といえます。特に、室内と収納内部の環境条件が大きく異なる場合、「反り」という現象が発生することがあります。



「反り」の発生をできるだけ抑える方法について

ご使用の環境や設置場所によって「反り」が発生する場合があります。「反り」の発生をできるだけ抑える方法として、次のことにご注意ください。

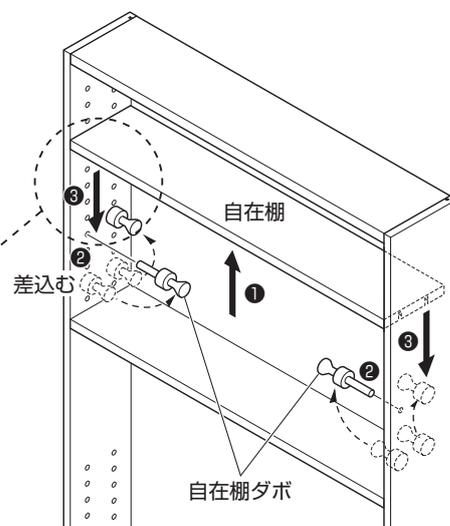
1. エアコン、暖房器具などをお使いになる場合は、製品に直接熱風、熱気が当たらないようにしてください。
2. 夏場の冷房、梅雨時の除湿、冬場の暖房などにより、室内と収納内部の環境条件の差を極端に大きくしないでください。
3. 製品に直射日光が当たる場合は、窓辺にカーテン、スタレなどを設けて日光を遮ってください。発生した「反り」は、室内と収納内部の環境条件を近づけることによって、小さくなる場合があります。

2 本体の使い方

自在棚の付替えかた

自在棚ダボの取付位置を変えることで、自在棚を32mmピッチで付替えることができます。

1. 自在棚を持ち上げて取外す。
2. 自在棚ダボを外し、使い勝手のよい位置に差込む。
3. 自在棚のシステム金具を、自在棚ダボに合わせて取付ける。

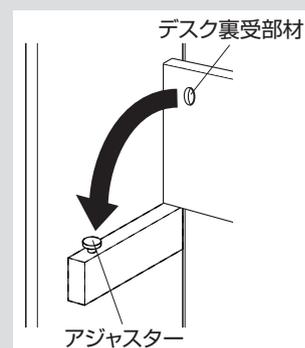


デスク扉・スタンディングデスク扉の使い方

◇使用上のご注意

⚠ 注意

- ！ デスク部の調整は、両開き扉の「デスク扉受棧」のアジャスターとデスク部裏面の「アジャスター受金具」が、確実に嵌合している事を確認しガタツキが無い状態に設定ください。嵌合していない状態で使用すると、デスク扉が脱落しケガをする恐れがあります。
- ！ スタンディング用デスク（オプション）は、必ずデスク部を開いた状態で、両開き扉との嵌合を完了させた後に使用してください。その際、両開き扉のガタツキでスタンディング用デスクとのすき間に指などが挟まれないかの確認を必ず行ってください。不完全な状態で使用されますと、ケガをする恐れがあります。

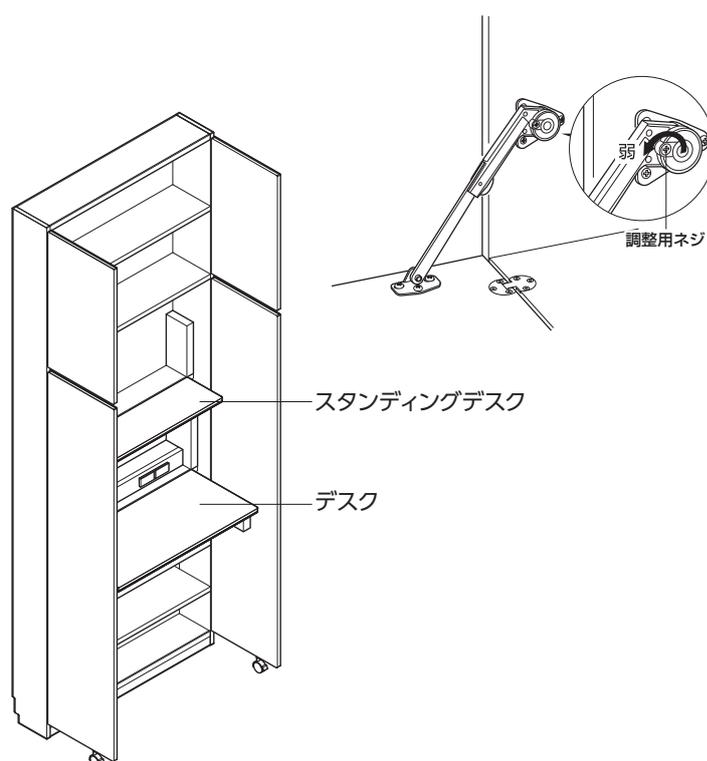


デスク扉が固い場合の調整方法

1. デスク扉を開く。
2. デスク扉の左右ステーにある調整用ネジをプラスドライバーで回して金具バネの力を調整する。
調整用ネジを時計回りに回すと、バネの力が強くなります。
調整用ネジを反時計回りに回すと、バネの力が弱くなります。

お願い

- バネの力を弱くしすぎると、扉が脱落するおそれがありますのでご注意ください。
- バランスが悪いと、扉が傾いたり、うまく開閉できなくなります。左右の調整用ネジは同程度に調整してください。

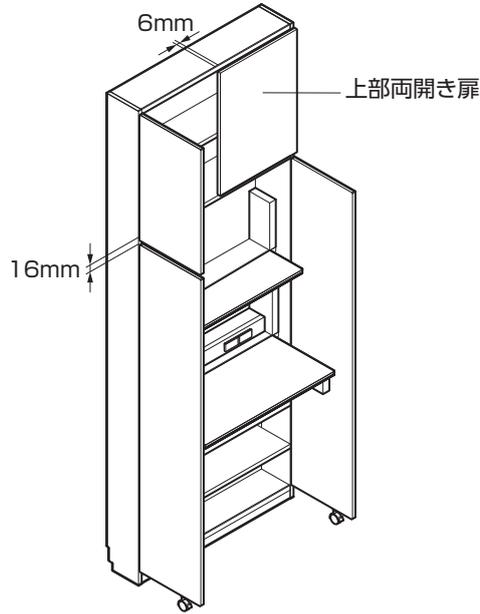


3 両開き扉の調整方法

両開き扉の調整のしかた

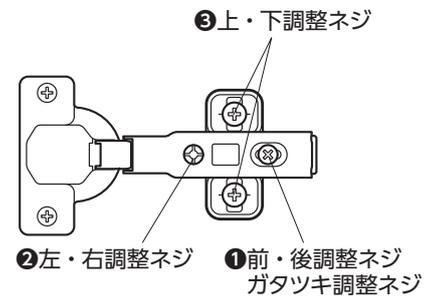
扉どうしのすき間について

- 扉どうしの上下のすき間は下記が標準です。
 - ・上部両開き扉と中央両開き扉：16mm
 - ・上部よりせまいと、扉を開閉する際に指が入りこくなります。
- 扉どうしの左右のすき間は、6mmが標準です。



丁番の調節のしかた

現象	調整箇所	処置
前後の位置ズレ 	<p>①前・後調整ネジ</p>	調整範囲：+3.0mm -1.0mm 前・後調整ネジをゆるめ、扉の前後位置を調整後、締め直してください。
左右の位置ズレ 	<p>②左・右調整ネジ</p>	調整範囲：±2.0mm 前・後調整ネジを締めた状態で、左・右調整ネジを回して、扉の左右位置を調整してください。 時計回り：吊元側に移動 反時計回り：戸先側に移動
上下の位置ズレ 	<p>③上・下調整ネジ</p>	調整範囲：±2.0mm 上・下調整ネジをゆるめて、扉の上下位置を調整した後、締め直してください。

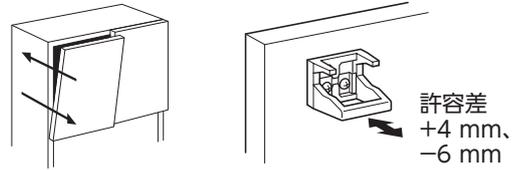


3 両開き扉の調整方法

耐震ロックについて

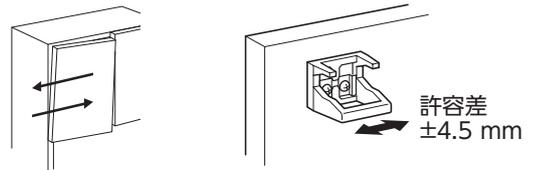
扉の前後を調整した場合

前・後調整ネジをゆるめて扉を調整した場合は、受座開口部奥行き方向の許容差が+4 mm、-6 mmありますので、調整の必要がない場合がほとんどです。



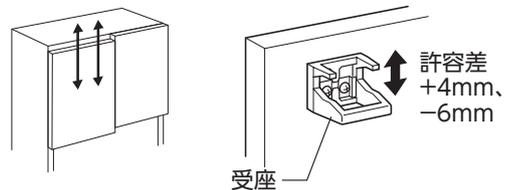
扉の左右を調整した場合

左・右調整ネジを回して扉を調整した場合は、受座開口部幅方向の許容差が、±4.5mmありますので、調整の必要がない場合がほとんどです。必要な場合は、受座をずらして取付け直してください。



扉の上下を調整した場合

上・下調整ネジを回して扉を調整した場合は、扉を閉めると受座が自動で正しい位置に調整されます。受座開口部上下方向の許容差は+4mm、-6mmあります。



◇ 耐震ロックの使用上のご注意

⚠ 注意

耐震ロックについて

- ❌ 耐震ロックは収納用キャビネットの扉に取付け、地震などの振動によって扉や引出しが開くのを軽減するロック装置です。それ以外の目的で使用しないでください。
- ❗ 耐震ロックは、すべての振動に対して有効ではありません。振動の方向や収納キャビネットの設置条件によって、扉や引出しが開くことがありますので、十分に注意してください。
- ❗ 収納物を出し入れする際、頭や顔に耐震ロックの受座が当たらないように注意してください。けがをするおそれがあります。



振動発生時や発生後について

- ❗ 振動（地震など）発生時、速やかに収納キャビネットから離れて、安全な場所に避難してください。扉や引出しのすき間から、不安定な収納物や小さな収納物、破損した収納物などが落下してけがをするおそれがあります。
- ❗ 振動（地震など）発生後に扉を開ける際、収納物が落下してくることがあります。扉を少しだけ開いてみて、収納物が扉などに寄りかかっていないか確認してから扉を開けてください。収納物が落下してけがをするおそれがあります。
※耐震ロックは振動発生時にロックがかかりますが、振動が治まるとロックは自動的に解除されます。ロックが解除されない場合は、P.37「4.耐震ロックの解除のしかた」を参照し、ロックされている扉を解除してください。収納物によっては、少し扉が開いた状態でロック状態になることがありますが、扉を閉め直すとロックは解除されます。

耐震ロックの取扱いについて

以下の内容を守らないと、正しく動作しなかったり、変形や故障の原因になります。

- ❌ 分解や改造をしないでください。
- ❌ 過剰な衝撃や力を加えないでください。
- ❌ 高温多湿の場所に長時間放置しないでください。

4 耐震ロックの解除のしかた

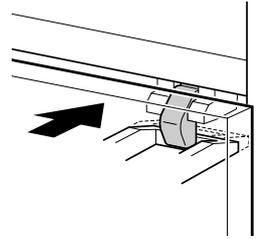
この製品の上部両開き扉には、地震などで本体がゆれた際に、上部両開き扉が開かないようにロックするための耐震ロックが取り付けられています。本体に当たるなど、衝撃を与えたりすると耐震ロックがかかってしまう場合がありますので、以下の要領で解除してください。

開き扉の耐震ロックの解除のしかた

・ロック解除のしかた

収納物が倒れて扉に寄り掛かったり、はさまるなどして、扉が閉まっていない場合にロックが解除できない仕組みになっています。いったん扉を閉めきることで、ロックが解除されます。

寄り掛かったりはさまったりしている収納物が落下しないように注意しながら扉を開けてください。



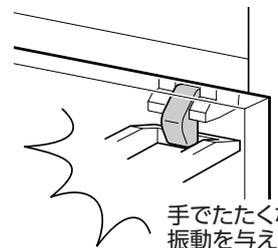
・ロック強制解除のしかた

⚠ 注意



ロックの強制解除では、外部から強制的に力を加えます。

強制解除後の耐震ロックは本来の機能が損なわれていることがありますので、そのまま使用しないでください。必ず新しい耐震ロックに交換してください。

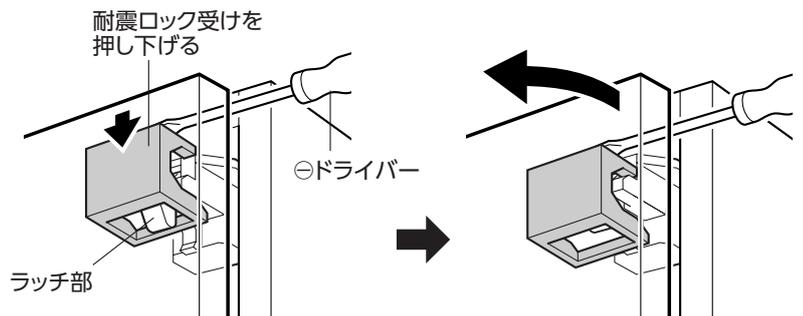


・ロックの強制解除のしかた〈1〉

扉のラッチ付近を手でたたくなどして振動を何回か与えて2～3秒してから、ゆっくり扉を開きます。

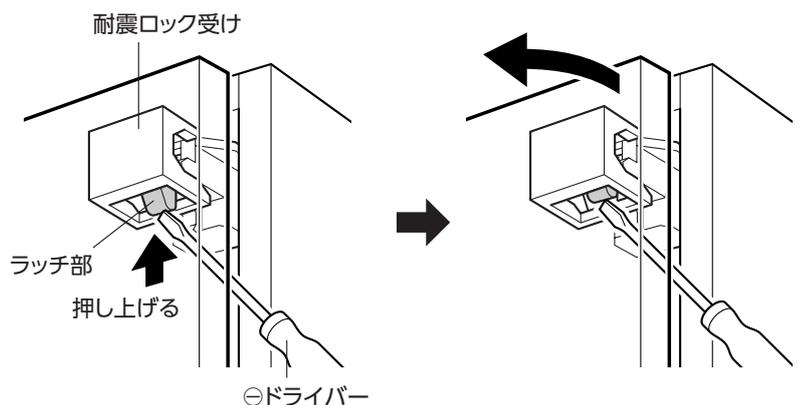
・ロックの強制解除のしかた〈2〉

1. ロックが掛かっている扉を開く。15mm程度のすき間が開く。
2. ⊖ドライバーなどで耐震ロック受けを押し下げ、ロックを解除する。
3. 耐震ロック受けを押し下げながら扉をゆっくり開く。



・ロックの強制解除のしかた〈3〉

1. ロックが掛かっている扉を開く。15mm程度のすき間が開く。
2. ⊖ドライバーなどでラッチ部を押し上げ、ロックを解除する。
3. ラッチを押し上げながら扉をゆっくり開く。



5 お手入れの仕方

日常のお手入れ

警告



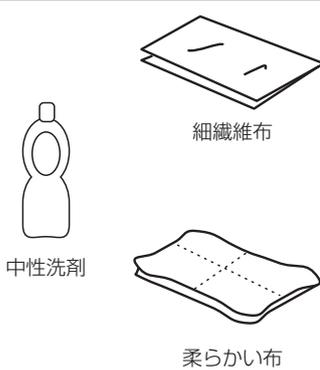
コンセントを使用している場合は電源プラグを抜いて、コンセントにゴミやホコリが付着しないように定期的に掃除をしてください。
火災やショート・漏電・感電のおそれがあります。

- ・日常のお手入れは、乾拭きしてください。
- ・汚れが著しい場合は、うすめた中性洗剤につけた雑巾を固く絞って拭いた後、水分が残らないように乾拭きしてください。

汚れを落とすときのご注意

酸、アルカリ性洗剤やアルコール、シンナー、ベンジンなどを使用しないでください。
表面のツヤがなくなったり変色する恐れがあります。

使える洗剤と道具



使ってはいけない洗剤と道具



定期的な点検項目

※製品の長期間の使用にともない、部品などが劣化（経年劣化）を生じ安全上支障が出るおそれがあります。

経年劣化による重大事故を防止し、製品を長く安全にご使用いただくために、お客様自身による以下の点検を実施いただけますよう、お願いします。

点検部位	点検項目	兆候有無	対応方法	経年劣化進行にともなう具体的な事象
デスク扉	扉がスムーズに開閉できるか。 デスク使用時に水平であるか。	無・有	ステーの調整 デスク受棧のアジャスターの調整	ステーや丁番の変形や破損。 扉の変形。
スタンディングデスク扉	扉がスムーズに開閉できるか。 デスク使用時に水平であるか。	無・有	ステーの調整 ステーの交換	ステーや丁番の変形や破損。 扉の落下。
中央両開き扉	扉がスムーズに開閉できるか。 丁番にガタツキがあるか。	無・有	丁番とキャスターの位置調整 丁番とキャスターの交換	丁番やキャスターの変形や破損。 扉の落下。
上部両開き扉	扉がスムーズに開閉できるか。 丁番にガタツキがあるか。	無・有	丁番の調整 丁番の交換	丁番の変形や破損。 扉の落下。
自在棚	棚板の傾き、垂れ下がりはあるか。	無・有	棚板の交換	棚板の落下。 棚受ダボの変形や抜け。

DAIKEN製品の品質保証について

弊社では対象製品について下記保証期間・保証事項に記す内容を保証させていただきます。

■対象製品

スイッチプラス 740

■保証事項

外観上の著しい変形・変質が生じないこと

通常的环境下で、弊社の施工説明書・取扱説明書に準じた正常な施工・使用がなされている状態（前提条件）で、上記の事項を保証します。尚、本内容は日本国内においてのみ有効です。

■保証期間

本製品の、保証期間は2年間です。

弊社製品の施工完了後、または物件の引渡後に生じた、弊社の責任に起因する製品の不具合を、無料で修理する期間としております。

保証期間を経過したものは、有料となります。

■免責事項

製品の不具合原因が次のような場合には、保証期間内であっても「保証対象外」になります。

- ①建物の設計・施工に起因する不具合
- ②施工説明書に記載された方法以外の施工内容に起因する不具合
- ③自然現象・周辺環境等（※1）の不可抗力に起因する結露、腐食、反り、割れ又はそのほかの不具合
- ④室内であっても部屋内外の温湿度差が著しく違う部位に取り付けられたことによる隙間・反り・キシミ音などの不具合

- ⑤極端に乾湿を繰り返したり、著しく高温・多湿となる部位に取り付けられたことに起因する不具合
- ⑥建物自体の変形、入居後における増改築や改修等に起因する不具合
- ⑦入居者または第三者の不適切な使用または維持管理等に起因する不具合
- ⑧取扱説明書記載事項から逸脱した使用に伴う、消耗、磨耗、破損、変形などによる不具合
- ⑨経時変化による通常一般的な当該保証対象品の変色、汚れ、さび、かび、劣化磨耗などの不具合
- ⑩用途外に使用された場合の故障及び損害
- ⑪犬・猫・鳥・鼠などの小動物の害に起因する不具合やキウイムシなどの虫害に起因する不具合
- ⑫仕上げ面のキズなどの不具合で引渡し時に申し入れがなかった場合
- ⑬保証期間経過後の申し出、または不具合発生後速やかに申し出がなかった場合
- ⑭製造時に実用化されていた技術では予測することが不可能な事象に起因する場合
- ⑮離島などの遠隔地へ出張を要する修理を行う場合、出張に要する実費
- ⑯その他当該不具合の発生が弊社の責によらない場合

※1：火災・地震・水害・落雷などの天災地変や、公害・塩害・ガス害や異常な高温・低温・多湿・過乾燥などの周辺環境

ユーザー登録サービス

このたびは DAIKEN 製品をお求めいただき誠にありがとうございます。製品を末永く安全にご愛用していただくために、ユーザー登録をお願いいたします。ご登録いただいたお客様情報は、製品安全に関する大切なお知らせや暮らしに役立つ情報を DAIKEN からご連絡する際に、ご利用させていただきます。

ユーザー登録は無料です！！

登録はこちらから
<https://service.daiken.jp/user/>



ユーザー登録いただいた方には、次の特典が受けられます

特典 パーツショップ製品10%割引
ご登録いただくと、DAIKENのパーツショップ取扱製品を通常価格の10%割引でご購入いただけます。

ご相談窓口について

- 製品に関するお取り扱い、補修、工事などのご相談は、組み立て・設置業者、工務店へ。
- DAIKENへ直接ご相談される場合は、下記窓口へお願いします。

製品に関するお問い合わせ

DAIKENお客様センター
0120-787-505
(フリーダイヤル)

- 受付時間…平日9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始・お盆はお休みをいただいています)

修理・交換部品のご購入の方は

DAIKENパーツショップ
部品のネット販売サイトです。
<https://service.daiken.jp/service/>

DAIKENホームページ ▶ お客さまサポート ▶
▶▶▶▶ DAIKENパーツショップ



ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

大建工業株式会社及び大建工業グループ各社は、当社「個人情報の取扱いに関する方針（プライバシーポリシー）」に則ってお客様に関する個人情報を利用させていただく場合がございます。（大建工業株式会社プライバシーポリシーに関しては、当社ホームページに掲載しております。）尚、電話での相談に対し、折り返し電話をさせていただくためにナンバーディスプレイを採用しています。またご相談内容を正確に把握し、適切に対応するために、通話内容を録音させていただくことがあります。